



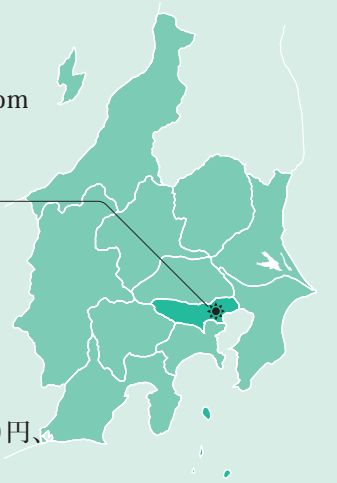
特定非営利活動法人

## じぶん未来クラブ

### 今日学んだことが、明日のじぶんを作る

所在地…〒150-0011 東京都渋谷区東3-12-2  
TEL…03-5774-6314 FAX…03-5774-6317  
URL…http://www.jibunmirai.com/ E-Mail…toiawase@jibunmirai.com

東京都渋谷区



1

#### 団体の概要

代表者名…佐野一郎  
設立年月…2005年11月 認証日…2007年1月9日  
有給スタッフ数…常勤/8名、非常勤/4名  
事業規模(09年度決算収入)…154,160,000円  
(内訳:事業収入153,000,000円、会費300,000円、補助金180,000円、寄付金680,000円)

#### 活動の 目的・趣旨

児童、生徒、学生をはじめとする不特定多数の一般市民に対して、青少年の健全育成の  
為の社会教育の推進や、次代を担う青少年たちが出会い、学び、育っていく場を創造す  
る事業を行い、広く社会教育の推進、子供たちの健全育成、まちづくりの推進、国際交  
流等、公益の増進に寄与することを目的とする。

#### 団体の設立経緯

じぶん未来クラブの設立メンバーの大半は、(株)リクルートに勤めていた社員である。  
2000年、(株)リクルートでは、各企業に入社する前の人材育成や若者のキャリアアップを目的とした  
事業を立ち上げようと、欧米のキャリア支援の子ども向け教育プログラムを調査・研究し「キャリア教育  
プロジェクト」を事業提案した。若者がキャリアアップを通じて育ち、人が元気になっていく。それはリ  
クルートらしい教育事業であったが、収益上の観点で実現されず、プロジェクトは解散に至った。  
しかし、プロジェクトに参加した設立メンバーは、目の前にいる人たちが生き生きとし、元気になって  
いくそのプロセスに魅力を感じ、のちに(株)リクルートを退社し「じぶん未来クラブ」を設立した。

#### 主な活動内容

##### ①ヤングアメリカンズ・ジャパンツアー

アメリカの非営利活動団体ヤングアメリカンズを招聘し、日本の子どもたちに「表現教育」プログラム  
を提供。

##### ②お仕事探検隊

企業とタイアップした職業観の育成支援プログラムを実施。

##### ③教育コーディネーターの養成

CLICK(地域教育力創発機構)のプロジェクト。

##### ④教育支援コーディネーター

東京都教育庁より委託を受け、都立高校のキャリア教育に関わる支援を実施。

##### ⑤JOC(日本オリンピック委員会)からの委託で、日本代表強化選手のキャリアプログラムの開発

2

#### 主な教育関連事業の紹介

##### 事業名称 ヤングアメリカンズ・ジャパンツアー

公演活動と音楽教育活動(アウトリーチ=出張事業)を行う米国の非営利活動団体「ヤングアメリカ  
ンズ」(以下、YA)を招聘して、日本の子どもたち(小~高校生)向けに「英語で体験するミュージカ  
ルワークショップ」を行う全3日間のプログラムである。初めの2日間をワークショップに当て、ダンス  
のレッスン、歌のレッスンなどを行い、最終日にYAと共に1時間の歌とダンスショーを観客の前で披露  
する。

※ヤングアメリカンズ(The Young Americans、略称YA)とは

1962年、若者の素晴らしさを音楽によって社会に伝えようと、ミルトン・C・アンダーソンによって設  
立されたアメリカの非営利活動団体。音楽公演と教育が活動の二本柱で、17~25歳の若者たち約  
300名で構成されている。日本に来日するのは厳しいオーディションを勝ち抜いた音楽と子どもたちを心  
から愛する若者たちである。

#### YAが来日したが、開催場所が無い

YAとの出会いは唐突であった。代表の佐野氏が(株)リクルートを辞め、団体設立に向けて活動して  
いた時期に、群馬県のリゾート地の経営を手伝っていたことがある。そこで、そのリゾート地とアドバイ  
ザー契約を結んでいたアメリカのボーイハイランドUSAリゾートの  
社長であるアーサー・ティーボ氏と知り合い、アメリカで子どもたち  
への表現プログラムとして実績があるYAのことを教えられ、教育事  
業の団体設立を目指しているのであれば、最適だと勧められた。こ  
の出会いがキッカケで、YAを日本に誘致する話がどんどん進み、  
初めてYAの存在を知った3カ月後には、37名のYAが成田に到着  
していた。



YAのワークショップ「即興のクラス」

当時YAのプログラムは、アメリカ本国はもちろん、イギリスやドイツでも行われ、各国の学校の授業  
の中に特別科目として取り込まれていた。しかし、YAが初来日したとき、日本ではプログラムを実施す  
る学校は、1校も契約できていなかった。

#### 日本オリジナルの開催スタイル

(株)リクルート在職時の人脈を駆使し、学校に問い合わせ、YAの魅力を説明したが、年度途中とい  
うことで開催をしてもらえない学校は見つからなかった。そこで、学校での開催が難しいと結論づけ、自主  
開催を目指す考えが浮かんだ。

再び前職の人脈をたどり、プログラムが行えるホールを探し、音響を入れて、参加費1万円でプログ  
ラムの参加を呼びかけた。しかし今度は、参加者が集まらなかった。そこでYAの内容を見てもらうこと  
が一番であると考え、プログラムを行うホール近くの大きなスーパーマーケットで、プレステージを1日  
で2回開催して参加者を募った。これが功を奏し、13名の参加希望者が、YAのステージを見た後には

135 名になった。そして、YA の初ジャパンツアーは、3 カ月で 6 回のプログラムを実施し、654 人の参加があった。

初開催の年は、運営に多額の費用がかかり、参加者も集まらず、今後このプログラムを続けていけるのか、団体内で問題になるほどであった。しかし、子どもたちが YA と共に歌やダンスのワークショップを行い最終日のステージを目指している姿や、最終日のステージでの生きるエネルギーに満ち溢れた子どもたちを見ると、このプログラムはぜひ続けたい、何とかしても続けるべきだと思った。

その後、YA のジャパンツアーは、学校で行うのではなく、ホールを借り、参加費を募る他国とは異なるスタイルでほぼ行っている。これは日本独自のスタイルであるが、YA のジャパンツアーの規模は年々大きくなっている。今では春、夏の年 2 回の計 6 カ月開催となり、年間 7,000 人以上の参加者がある。

### ホストファミリーとボランティアスタッフ

YA はプログラムを行うどの国でも、参加者の家庭にホームステイをしており、参加者とともにホストファミリーの募集も行っている。子どもたちやその家族は、ワークショップを共に行う YA が自分の家に滞在し、一緒に過ごす時間を楽しんでいる。

現在、過去に YA のプログラムを体験した子どもの保護者が、ボランティアとして活動。約 700 名がそれぞれの地域でワークショップの参加者やホストファミリーの募集をはじめ、当日の会場運営などを手伝ってくれている。



YA と作ったショーのクライマックス

## 3 事業の成果と課題

### 今の自分+YA=あたらしい「ジブン」

NHK の番組でも取り上げられた話であるが、不登校ぎみのある小学 4 年生の男の子が、親の勧めで YA のプログラムに参加し、ホストファミリーとなったことをきっかけに、毎日学校へ行くようになった。彼に何が起こったのか、彼自身が言語化できないため明確には分からないが、変化が訪れたのである。彼はそんなあたらしい「ジブン」を気にいっているようで、元気な少年として生活を送っている。

そのほかにも、「YA に参加したら、なんかできそうな気がした」と消極的な子どもが学校の行事の委員長に立候補したりと、多くの変化が起きている。

### ボランティアの組織化や運営が課題

そもそも YA ボランティアは、あえて管理的な方法での組織化をしてこなかった。それは、ボランティア活動をしてくれる方々の自主性を最大限重んじて展開してきたことによる（募集用のチラシを友だちに配布してくれる人もボランティアとしてお願いしている）。一方で、そういった方法をとってきたことにより、じぶん未来クラブから直接連絡を取れないボランティアも存在し、ボランティアの把握が難しくなっている。また、管理的な手法を取らずにボランティアの規模が拡大してきたことで、ボランティアが持っている YA に関する知識、YA プログラムの考え方、じぶん未来クラブへの理解などにバラツキが生じている。今後、ボランティアを組織としてどうまとめ、運営していくのが課題のひとつである。

### 広がる開催要望に応えるために

また、新しく開催を希望している地域が多く、年 2 回のツアーでは要望を受けている地域を回りきれなくなっている。YA を見たこともない、聞いたこともない子どもたちが、YA と触れる機会をつくりたいと考えているが、YA の滞在期間が制限されているなか（1 ツアー 90 日）で、新地域での開催をどう行っていくかが問題である。今まで開催してきた地域からも引き続き開催を要請されている現状もあり、嬉しい悩みでもある。

運営の資金についても問題がある。現在、参加費は 1 人 1 万 6 千円（3 日間のワークショップ）であるが、約 50 名もの YA のメンバーを米国より招聘するための航空費やホームステイを行わないときの滞在費、ステージの費用など出費も多く、改めて事業計画を考えなければならない点もある。



副代表の大野氏

## 4 今後の展望

### イエローサポーターからキッズサポーターへ

YA の行うプログラムは、もちろん英語で行われる。YA と参加者の間は、身振り手振りを交えたコミュニケーションで言葉の壁を越えているが、ワークショップの内容によっては、日本語で説明したほうが深いコミュニケーションを取れる内容もある。また、小学生低学年をケガなどから守り、安全にワークショップを行えるようにサポートすることも必要である。そのような問題に対応するために学生ボランティアの「イエローサポーター」が結成された。

イエローサポーターは、YA の活動を語学や安全面でただサポートするだけではなく、毎回イエローサポーター内で、YA の活動をより良くサポートするためにはどうすればよいか振り返りを行い、より良いサポートのあり方を探り続けてきた。

彼らの気づきによって改善されたことは数多くあるが、その中でも特筆すべきことがある。それは、YA に始めて参加する人と、何度も参加しているリピーターとの関係である。リピーターのなかには、以前行ったプログラムを覚えていて、新規参加者よりも上手くダンスや歌ができるため、新規参加者との間に壁が生まれてしまうという問題が起こっていた。

そこで、イエローサポーターは、YA のワークショップの休み時間に、リピーターに向かって「初めて YA に参加したときのことを思い出して!」と語りかけ、初めて参加している人に教えてあげようよ、と提案した。その後、その会場では、休み時間にリピーターの子どもたちが新規参加の子どもたちに歌やダンスを教える光景があらこちらで見られ、最後のショーは素晴らしいものとなった。子どもたちの安全管理だけではなく、参加者どうしを繋ぐ役割を得た彼らは、現在「キッズサポーター」と呼ばれ、彼らの問題提起と解決に向けた自発的な行動が、世界の YA ツアーにはない日本オリジナルのツアーとしての発展に大きく貢献している。

（ヒアリング応対者：副代表 大野高史氏）





特定非営利活動法人

## 放課後NPOアフタースクール

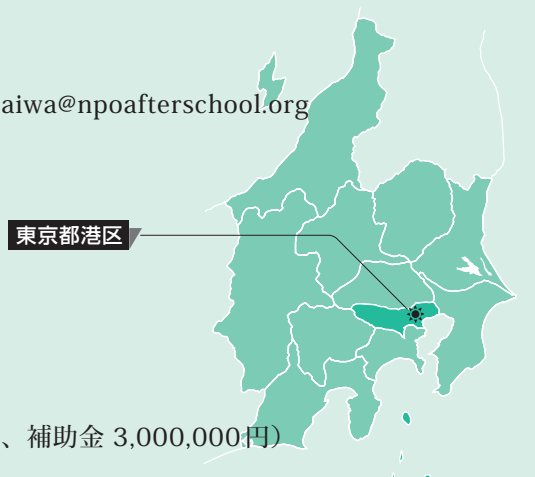
### 安全で、豊かな放課後を、全国で！

所在地…〒107-0052 東京都港区赤坂5-1-34-4F  
TEL…03-3588-1828 FAX…03-5760-6793  
URL…<http://www.npoafterschool.org/> E-Mail…[hiraiwa@npoafterschool.org](mailto:hiraiwa@npoafterschool.org)

1

### 団体の概要

代表者名…平岩国泰  
設立年月…2005年11月 認証日…2009年6月3日  
有給スタッフ数…常勤/2名、非常勤/約10名  
事業規模(09年度決算収入)…15,000,000円  
(内訳:事業収入11,000,000円、会費1,000,000円、補助金3,000,000円)



#### 活動の 目的・趣旨

子どもたちの生きる力を養うプログラムを提供する事業を実施することで、子どもの健全育成を図り、広く公益に貢献することを目的とする。

#### 団体の設立経緯

放課後NPOアフタースクール(以下、アフタースクール)は、子どもたちの無気力に対する危機感や、安全性に対する問題意識から設立されたNPO法人である。代表の平岩氏は、長女の誕生をきっかけに、放課後に事件に巻き込まれる子どもたち、ニート問題に象徴される生きる力の低下など子どもに関する社会的な問題に大きな関心を寄せていた。

同じ頃、報道で、米国では安全問題や教育格差問題の深刻化により、1990年代後半から各地に子どもたちの「放課後改革」に取り組むNPO法人が次々に誕生し、地域の企業や市民が学校に入り、放課後を豊かにするプログラムを提供する動きが広がっているのを知った。そこで、放課後の子どもたちにとって安全な居場所をつくと同時に、子どもが早いうちから好きなことを見つけて楽しみながら日々の生活を送れることは、子どもの教育上とても意義がある取り組みであると感じ、日本の子どもたちを対象とした「放課後改革」を開始した。

#### 主な活動内容

- ① 放課後プログラム事業
- ② 赤坂・青山子ども中高生共育事業
- ③ 世田谷区職員研修、子ども向け体験学習事業
- ④ 私立小アフタースクール事業委託

## 2 主な教育関連事業の紹介

### 事業名称 放課後プログラム事業

アフタースクールでは、世田谷区を中心とした東京都内および横浜市の小学校を対象に、放課後に子どもたちが様々な経験ができるプログラムを、年間約120回開催している。

#### 放課後プログラムが地域を元気にする

アフタースクールでは、プログラムを実施する講師のことを「市民先生」と呼ぶ。アフタースクールは、放課後の学校や公民館で、地域にいる特技やキャリアを持つ大人たちを「市民先生」として発掘し、その特技やキャリアを子どもたちに伝えるプログラム設計をする。「すべての大人は市民先生になれる」と平岩氏は語る。

プログラムの基本テーマは、「衣食住とモノづくり」。それらに加えてスポーツ、音楽、文化、学び、遊び、表現など子どもがイキイキと人生を生き抜くために必要なことをテーマとして掲げ、「子どもの生きる力を育むこと」をすべてのプログラムの最終目標としている。

例えば、料理をテーマにしたプログラムでは、地域にいる本物のシェフが登場し、子どもと一緒にお菓子作りや料理を楽しんでいる。また、建築プログラムでは、建築士の力を借りながら子どもたちだけで本物の木の家を完成させた。



「放課後の家づくりプログラム」の様子  
(2008・2009グッドデザイン賞受賞)

#### ● 3つのコンセプト

アフタースクールが手掛けるすべてのプログラムにおいて主軸になるのは、以下3つのコンセプトである。

- ① 実際にやってみる体験プログラムを行う  
子どもたちのリアルな体験により、生きる力を育むプログラムを展開する。
- ② 本物の大人に出会う質の高いプログラムを行う  
経験・実績に基づき、子どもたちの心に深く残るプログラムを共にコーディネートする。
- ③ 地域に根づいて入り込んだコーディネートを行う  
地域の方の信頼をベースにして、しっかりと根を張った活動を展開する。

#### ● 子どもの心にスイッチを入れる

さらに、放課後プログラムでは、子どもが好きなものに出会い、失敗して上手になりたいと思う気持ちや、「なんでだろう?」と疑問に思う気持ちを大切にしている。こうした思いや疑問によって子どもたちが、学ぶ楽しみ、作り上げる楽しみ、大人になる楽しみなどを感じることで、彼らの中に人生を豊かにする心のスイッチが生まれる。

#### 豊かな放課後を実現するプログラムに必要な4つのキーワード

「TVゲームよりも面白く、学習塾よりも学びがある放課後を!」という目標のもと、放課後プログラムを実施している。「子どもの生きる力を育む」プログラムにするためには、①自ら参加、②ホンモノに触れる、



③継続して実施、④最後に発表の場、の4つが重要な要素と考えている。

まずは自ら手を挙げてプログラムに参加してもらうことが重要である。また継続型にすることで、達成感が生まれ、子どもの心に深く残るものができる。さらに、どのプログラムにおいても大人はできるだけ手出しをせずに準備するだけにとどめ、成功しようが失敗しようが後は子どもに任せている。そして、単に楽しかっただけでは終わらせず、必ず学びがあるようにするために「最後に発表の場」を設けることを重視している。良い発表には良い準備が必要で、人に何かを伝える能力は、生きる力にも欠かせないからである。

### 3 事業の成果と課題

#### 120種類以上のプログラム、15,000人以上の参加

2005年に活動を開始してから5年で500回以上のプログラムを開催し、参加者は延べ15,000人にのぼる。また、衣食住、ものづくり、音楽、スポーツ、日本文化、学び、遊び、表現など多彩なプログラム展開を行い、開発したプログラムは120種類以上になる。2008年、2009年には2年連続でグッドデザイン賞（(財)日本産業デザイン振興会主催）を受賞し、2008年、2010年にキッズデザイン賞（(特活)キッズデザイン協議会主催）を受賞している。



ファッション&マナープログラムの様子

#### 参加する大人にとっても自己成長の場

放課後プログラムは子どものみならず、ボランティアとして参加する大人にとってもこれまでの人生を振り返る刺激的な場になっている。大人が子どもに教えるときには、まず子どもに分かりやすく自分を伝えるために、これまで歩んできた道を振り返る「棚卸し」の作業を行う。

放課後プログラムに関わる大人にとって、地位や肩書から離れて、子どもに経験を伝えることは、大人の生涯学習の場にもなっている。放課後プログラムを通じて、参加する大人が自らの仕事の社会的な意味を再認識しながら、社会に貢献することができる。実際、放課後プログラムを終えた後に、子ども以上に元気になって帰る大人が非常に多い。

#### 子どもが集まらない

活動開始当初は地域・保護者の理解を得ることに多くの時間を費やした。最初は学校を回っても放課後プログラムを紹介するチラシを受け取ってもらえない。さらに、児童館を回ってもライバルのように見られてしまう、公園にいる子にチラシを配布しても不審者のように思われるなど、子どもを集めることに多大な労力を要した。

しかしながら、活動を続けていくうちに徐々にアフタースクールの活動に対する支援の輪が広がった。まず、子どもの保護者がアフタースクールの活動に賛同してくれた。そして保護者を通じて、学校にもアフタースクールの活動内容が徐々に広がり始め、現在では教育委員会の支援を得て、世田谷区を中心とした東京都内で活動を展開している。これまでのアフタースクールの活動を「小さなことでも、継続して続けることが大事」、と平岩氏は振り返る。

#### 放課後コーディネーターに光を当てる

学校が子どもたちの放課後の時間を地域に開放することで、子どもたちの放課後が豊かになる。そのためには、地域の方々が信頼を寄せる「放課後コーディネーター」の存在が不可欠である。

しかし、コーディネーターが活動するための資金面で大きな課題がある。現在行政が拠出する助成金は、学童保育をはじめとした「子どもを預かるための事業」が主な対象であり、放課後プログラムをはじめとする体験型事業に対する助成金は限定されている。

また、体験事業に対する助成金を、材料費や講師への謝礼に充てることはできるが、放課後プログラムをコーディネートする人件費に充当することはできない。体験型事業に対する助成金の枠が増えれば、放課後コーディネーターが職業として成立するようになり、より内容が充実したプログラムを提供する機会が増える。米国の放課後NPOのように、日本の放課後NPOに対しても、企業や行政からの支援の幅が広がることが望ましい。

とりわけ企業には、企業が持つ人的資源を子どもたちの放課後のために投入してもらいたい。例えば、企業で働く社会人が放課後コーディネーターになれば、企業人の視点から学校現場にはない貴重なプログラムを開発できると考えている。企業は学校との直接の接点がないため、アフタースクールがその間に入ることで、子どもたちのためになるように放課後プログラムをコーディネートすることが可能となる。



歌づくりプログラムの様子

### 4 今後の展望

#### 地域が子どもを育てる社会を目指す

地域が子どもを育てる社会に向けて、今はその途上にあると考えている。現段階において、放課後の子どもの預かり事業と、体験事業を両立できる母体となる組織としては、学校が最もふさわしい。しかし将来は学校だけでなく、図書館や公園などの地域全体で子どもを預かり、育むような形になるのが理想である。



子どもたちの未来を語る平岩氏

#### 学校とNPOが連携した夢のアフタースクール

2011年4月には、私立新渡戸文化学園とアフタースクールが連携し、「新渡戸文化アフタースクール」を開校する予定である。「新渡戸文化アフタースクール」では放課後の子どもを預かる事業とともに、多様なプログラムを提供できることに大きな特徴がある。将来は放課後NPOが全国各地で誕生し、日本中の学校で放課後プログラムが行われていることが大きな理想であるが、そのための布石として「新渡戸文化アフタースクール」を成功モデルとして確立したい。そしてそのモデルを全国の同志を通じて、拡大していきたい。

（ヒアリング応対者：代表理事 平岩国泰氏）



日本全土でみれば、子ども1人に対して、大人が6人いる構成になる。大人が子どもと関わり、その持てる資源を活かすことで「大人ってスゴイな!」「早く大人になりたいな!」と子どもが思うことが、未来の日本を元気づける成長のエンジンになる。





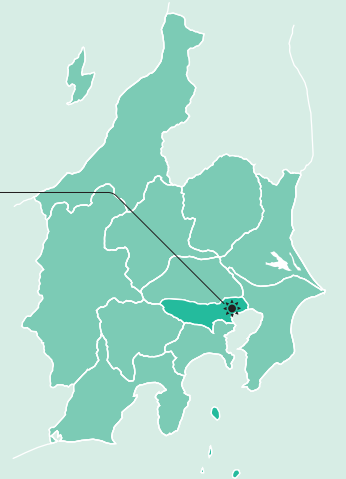
特定非営利活動法人

# 森の学校

## 自然に学ぶ森の中の自然学校

所在地…〒104-0061 東京都中央区銀座 7-18-13-203  
TEL…03-5565-1144 FAX…03-5565-1199  
URL…http://www.morinogakkou.jp/  
E-Mail…morinogakkou@kankyoinfo

東京都中央区



1

### 団体の概要

代表者名…佐伯剛正  
設立年月…1993年7月 認証日…2002年10月25日  
有給スタッフ数…常勤/0名、非常勤/0名  
事業規模(09年度決算収入)…1,882,500円  
(内訳:事業収入500,100円、補助金・寄付金1,382,400円)

#### 活動の目的・趣旨

子どもから大人、家族、団体と幅広い層に対して、自然体験、野外教育、環境教育などに関する事業、そして、それらに関係した様々な事業を行い、自然の営みの奥深さ生命の尊さへの気づきと、人との触れ合いの中から、豊かな心を育み、健全な人間性の形成を行うと共に、すべての生き物、すべての人類がともに暮らすことが出来る社会の実現に寄与することを目的とする。

#### 団体の設立経緯

「森の学校」は、1993年の夏に「ハックルベリーくらぶ」として自然体験のツアーを開始したのが始まりである。当時、日本では家庭内の暴力事件や登校拒否などが急増し、子どもたちを取り巻く環境の悪化が社会問題になっていた。そんな子どもたちや社会に自然からの学びが必要だと考え、自然の中で遊び学ぶ体験から生きる喜びを発見し、生きる知恵と力を育む自然の学校「森の学校」を開校した。

独自の自然観に基づいた環境教育を行うようになったのは、1994年に出会ったカナダのパークワデン(国立公園のレンジャー)の自然観に由来する。彼らは自然の価値のひとつである「命のつながり」を伝えるために、人間は自然の一部で、自然は人間などよりとても大きな存在であり、自然との関わり方や自然との対話を表現するのにアプリーション(Appreciation=物事の真価を見極めること、賞賛するなどの意)を大切にすることを提唱していた。このときの貴重な出会いから、日本の四季と日本人の豊かな自然観に基づいた森の学校の多くのプログラムが生まれた。

#### 主な活動内容

里地・里山・里海などでの自然体験、野外体験、農林水産業体験などを中心に、人々が長い時間をかけてつくりあげてきた知恵を活かし、自然の恵みの奥深さ、生命の尊さを伝える活動を展開。

- ①主催事業:環境教育をより深く子どもや大人、親子に伝えるための活動
- ②受託事業:環境教育の専門的なスキルとノウハウを提供
- ③行政との連携:より大きな社会的広がりをもって環境・自然・地域を保全し、次世代に伝えていく

#### めの活動

- ④企業との協働:企業のCSR活動等に協働し、社会の持続性を実現するための活動

## 2 主な教育関連事業の紹介

### 事業名称 主催事業

#### 里山の木造校舎(廃校)を学びの拠点に

校舎は学びの原点の場である。里山の廃校になった木造校舎を市町村から借り、校舎を整備して様々な体験活動を展開している。初代校舎は群馬県南牧村。2009年末に栃木県に移転。校庭の横を溪流が流れる山里の中の校舎「前日光・かぬま校」(鹿沼市)、田園風景が広がり校舎下を清流が流れる「那須・なかがわ校」(那須郡那珂川町)の2カ所。「那須・なかがわ校」では30年ほど耕作放棄されていた谷津田を開墾し再生させて、古代米などを育てている(森の学校農園)。

「森の学校」は、自然の中で遊び学ぶ体験から、生きる喜びを発見し、生きる知恵と力を育む自然学校であり、大人も子どもも同じ「自然の生徒」であると考えている。自然を見つめることから得られる「生命(いのち)の尊さ」、自然と人との交流の中から生まれる「心の豊かさ」を学びとる場として「森の学校」の校舎を位置づけている。



初代の校舎の外観

#### キッズキャンプ・プログラム

里山の木造校舎の森の学校の拠点では、1泊2日～2泊3日程度のテーマキャンプ・プログラムを実施している。

テーマキャンプには様々な内容があるが、なかでも小学3年生～中学2年生の子どもたちを対象にした「キッズキャンプ」は、年齢の異なる子どもたちが互いに協力し影響しあって育つことを目的としたプログラムで、そこで行う「リバートレッキング」や「滝飛び込み」プログラムには定評がある。

川の水流が生み出す自然の計り知れないエネルギーを五感で感じ、子どもたちは年齢の壁を越え、互いに助け合いながら進んでいくことで、リーダーシップやフォロアーシップを学び、自分がどんな役割でこれからの人生を生きていくべきか、大きなヒントを得ることができる。



みんなで力を合わせるリバートレッキング

3日間の「滝の飛び込みプログラム」に参加していた小学4年生の男の子は、内向的な性格だったが、森の学校のインストラクターの補助を受けながらも数々の自然が産み出す難関をこなし、中学校を卒業すると、自分が小学生の子どもたちの面倒を見る森の学校のスタッフとなった。

このほかに家族で参加する「ファミリーキャンプ」もあり、親子で一緒に自然から多くのことを学ぶプログラムになっている。

自分への挑戦・仲間との協力を学ぶ「リバートレッキング」「滝飛び込み」。水生昆虫を観察し川の自然環境を学び自然とふれあう「フライフィッシング」。縄文食づくりや原始火起こしなど自然とともに暮らした古代人



の知恵を体験から学ぶ「縄文プログラム」。自然をカタチにする「アートプログラム」。耕作放棄された谷津田を開墾し古代米などを育てる（森の学校農園）「農育プログラム」、「食育プログラム」など、様々なプログラムを実施している。

## 事業名称 企業との協働

### 自然の恵みと命のつながりを学ぶ「TaKaRa 田んぼの学校」

宝酒造(株)のCSR活動「TaKaRa 田んぼの学校」に企画段階より全面的に協力。宝酒造では、それまで毎年、湘南海岸でのクリーンナップイベントを行っていた。10年間続いたのを一区切りに、新たなプログラムを行おうと、自然保護団体の(財)日本自然保護協会を通じて相談を受けた。これをきっかけに、田んぼを使った環境教育の新たなプログラム「TaKaRa お米とお酒の学校」を2004年より開校した(2008年に「TaKaRa 田んぼの学校」に名称変更)。

「TaKaRa 田んぼの学校」は、農作業を目的としたプログラムではなく、稲を育てながら田んぼ周辺の多様な生き物を観察し、稲を中心とした“自然の恵みと命のつながりを学ぶ”プログラムである。自然の仕組みや尊さを理解し、自然を守り大切にすることを趣旨としている。

### 企業とNPOと地元との協働

田んぼの学校の先生は人ではない、田んぼやそこに住む生き物たちと自然が先生である。そして、自然の素晴らしさを学びとるお手伝いをするのが、地元の農家の方や自然観察指導員、NPO法人森の学校、そして宝酒造(株)や宝グループ会社の社員の方々である。

参加者は、小学生の子どもとその家族で、「田植え編」「草取り編」「収穫編」「恵み編」と年4回開催。体験田んぼでは、田植えから草取り、稲刈りと、稲を育てながら自然のしくみを体験から学ぶ。「恵み編」では、宝酒造(株)の工場で、収穫したお米が微生物の力で本みりんになることなどを学び、子どもたちは体験田んぼの稲ワラで作った和紙で本みりんのラベルを作り、翌年には子どもが描いたラベルを自分たちで育てたお米で造った本みりんのビンに貼って参加者の家庭に届けている。1年間を通して、自然の恵みと命のつながり、そして、その中に私たち人間がいることを伝えている。

## 3 事業の成果と課題

### 280名のネイチャーツアーガイドを育て上げる

2001年に福島県で開催された「うつくしま未来博」で、環境教育をテーマにしたパビリオン「森のネイチャーツアー&森の学校」で活躍するネイチャーツアーガイドを、約3年間かけて280名育て上げた。博覧会協会との10年来の話し合いで実現したネイチャーガイドの育成は、当時日本で先駆けて行った環境教育の人材育成であった。

### 環境教育は「人間教育」に繋がる

子どもたちの親から「環境教育を受けると子どもは変わりますか?」と聞かれることが多いが、「そんなにすぐ変わるものではない」と答えている。環境教育とは“人間教育”だと考えている。環境教育を受けたから、明日からゴミの分別を行うようになるとか、ご飯を残さないようになるとか、マナーが良くなるというたぐいの教育ではない。

日常生活の中で「ゴミをその辺に捨てない」などの環境マナーは、しつけとして教えることである。本当に知ってもらいたい環境教育とは、自然との関わり中で命を尊ぶことや、多様な生き物との繋がりの中で人間も存在しているのだという「生きる哲学」を自然から学ぶことであると考えている。

例えば、自然界では、食べられる側の生き物も、食べる側の生き物も存在し、互いに重要な存在である。“自然界に存在するものは全て役割があり何かの役に立ち、無駄なものがない。”このようなことを観察や体験を通して理解することで、安易に他者を仲間はずれにするイジメや、自己を否定して自殺に走るということも少なくなると考えている。

### 哲学を持った人材の育成

スタッフは活動の核である。現在、森の学校でスタッフの育成は大きな課題である。自然の中で行う活動の中には「リバートレッキング」などハードなプログラムもあり、参加者の安全面の確保からスタッフには十分な体力と安全に対するスキルが必要である。伝える技術も必要である。しかし、最も大切なのは何のためにこの活動をするのかという哲学を持つことである。

そのため、カナダのパークワーズのレンジャーから学んだ、アプリシエーション（Appreciation＝物事の真価を見極めること、賞賛するなどの意）という考え方をもとに、日本独自の自然を敬う哲学を持ったスタッフを育てなければならないと考えている。資金や育成にあたる人手の面など課題は大きいですが、将来を担う人材の育成は重要である。

## 4 今後の展望

### 人間教育をもとに、すべての生き物・人類が暮らし続けることができる社会の実現を

環境教育は“人間教育”だと言ってきたが、自然を通して命を尊ぶことや、他者を思いやることを学んだ感覚を地域に生かしたいと考えている。未来の財産である子どもたちを育てる重要な環境は、住んでいる地域にある。昔日本は、住んでいる地域に日常的な付き合いがあり、隣に住む人が誰か、外で遊んでいる子どもはどこの家の子ともかみんなが知っていた。自然界のように多様な繋がりの中で生活していたのである。

地域の繋がりの中で子どもたちを育てることで、子どもに関する危険や犯罪も少なくなり、共働きの家庭も安心して子育てができるなど、少しずつ社会が変わってくる。このような考えから、事務局がある東京都での活動にも注力し、2010年には月島の商店街やもんじゃ振興会の方々、森の学校がある那珂川町の方々に協力をいただき、月島地域の子どもたちと那珂川町の子どもたちの、キッズ交流キャンプを開催した。このように次世代の育成とともに、地域理解、地域間理解を進めていき、すべての生き物、すべての人類がともに暮らすことができる社会の実現に寄与していきたい。

(ヒアリング応対者：代表理事 佐伯剛正氏)



森の学校では、『自然と人間の哲学』(内山 節著、岩波書店)の環境に対する考え方や哲学を活動するうえでの参考にし、迷ったときなどに読み返し、活動にブレが生じないようにしている。



特定非営利活動法人

ゆめ しよく にん

夢職人

Empowering children & youth, Building community, Driving social change

所在地…〒136-0071 東京都江東区亀戸9-6-15-201

TEL…03-5935-7302 FAX…03-5935-7302

URL…http://yumeshokunin.org E-Mail…info@yumeshokunin.org

1

## 団体の概要

代表者名…岩切 準

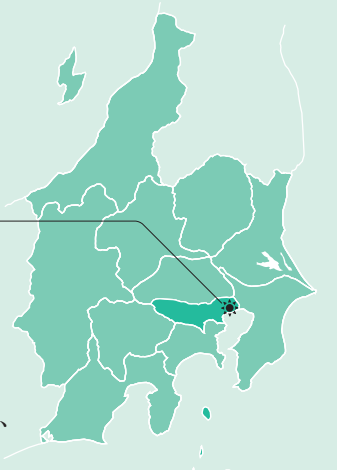
設立年月…2004年1月 認証日…2008年4月21日

有給スタッフ数…常勤/2名、非常勤/0名

事業規模(09年度決算収入)…8,763,448円

(内訳: 事業収入6,802,530円、会費809,600円、補助金838,352円、寄付金275,835円、その他37,131円)

東京都江東区



### 活動の目的・趣旨

子どもから大人まで幅広くまた多くの人に対して、社会教育に関する事業を行い、地域社会における人と人とのつながりを育むとともに、一人ひとりの社会力の育成に努め、もって地域又は社会全体の利益に寄与することを目的とする。

ミッション: より多くの子どもから大人までが学びを通じて、より深く関わり合える場や機会を拡充する。

ビジョン: 一人ひとりの成長が多様な主体によって支援され、誰もが心身ともに豊かに成長することのできる社会。

### 団体の設立経緯

代表の岩切氏は、親が病気や母子・父子家庭などの理由で十分に関わるできない子どもたちと遊ぶ中で、子どもが自立していくためには、家庭や学校以外の大人と関わる「第3の場」が必要であると強く感じるようになった。かつて地域が果たしていたこの役割を、新たな形で実現することを目指して、共感してくれる仲間と「夢職人」を設立した。

### 主な活動内容

#### ①キッズクラブ

小学1年生～中学3年生までを対象とした「地域子ども体験活動クラブ」。「あそぶ」・「まなぶ」・「つながる」をテーマに年間を通じて多様な社会教育プログラムを行う。

#### ②キャリア教育

子どもたちの実社会への興味・関心を高め、社会で活躍していくうえで必要な力を育てていくための社会体験の場や機会づくりを行う。

#### ③プレーパーク(冒険遊び場)づくり

禁止事項をなくし、自然を使って子ども自身がのびのびと遊ぶことのできる場づくりに取り組む。

#### ④土曜学習

地域の小学校と協働し、スタッフが月1回程度、土曜日に補習勉強会を開催。

#### ⑤プロジェクトサポート

子どもや青少年に関する野外教育活動、スポーツ・レクリエーション活動、文化・芸術活動など、社会教育に関する企画運営の支援、講師派遣等。

2

## 主な教育関連事業の紹介

事業名称

キッズクラブ(地域子ども体験活動クラブ)

### 子どもの主体性を伸ばせ

#### ●子どもが主役

キッズクラブでは、150名を超える会員(会費 年額2,400円)の子どもたちに、日帰りや合宿で様々な体験プログラムを提供している。最大の特徴は、子どもたちが主役となるプログラムであり、親は参加することができないことである。子どもの主体性を伸ばすためには親からの自立が大切と考え、親以外の様々な人と関わるができる環境をつくり出している。

プログラムでは、子どもたちがすることを一方的に禁止せずに、選ばれたボランティアスタッフが見守る中で、仲間と様々なことにチャレンジしていく。子どもの変化は顕著だ。半日も参加すると子どもの目の色が変わる。朝には、友達がおらず、消極的だった子どもが、夕方にはたくさんの友達をつくり、自分から声を出すようになっていく。

プログラムのメニューも「No.1山賊王決定戦!!」、「夏のびしょぬれ大作戦」、「つくりあげよう世界一のお菓子の家!!」など、子ども心をくすぐる内容が並ぶ。約8割の高い会員継続率とその充実振りをうかがわせる。翌日に活動の写真や連絡帳などで子どもの成長や当日の様子が報告されるので、親も安心して参加させられる。



ボランティアが子どもたちをサポート

#### ●目指すのは「半兄弟」の関係



料理にチャレンジ! うまくできるかな?

キッズクラブは、通年の継続プログラムである。これは、子どもたちが継続的な人間関係を築き、社会参加を促すことを目的にしているからだ。プログラムには、学年の異なる子どもや青年ボランティア(高校生、大学生、30代前半くらいまでの若手社会人など)が参加し、肉親ではないが本当の兄弟のような心のよりどころとなる「半兄弟」の関係を築いていく。特に、青年ボランティアはロールモデルとしての役割を果たし、子どもたちの成長に大きな影響を与えている。

### ボランティアこそプロ意識を

プログラムの企画・運営は、学生や若手社会人を中心とした約100名の青年ボランティアがチームに分かれて行う。このボランティアこそが、夢職人の質の高いプログラム運営の源泉となっている。



### ●ボランティアは憧れの存在

夢職人のボランティアの特徴は、その参加意識の高さだ。仕事の合間などの限られた時間ではあるが、夜遅くまで議論を交わす熱意と責任感は教員やインストラクターなどのプロに引けを取らない。

ボランティアは、団体ホームページ上で常時募集しており、毎年150人程度の希望者が集まる。採用までには、面接や体験参加など3段階の選考があり、実際にボランティアとして登録できるのは申込者のわずか3割程度である。そのため、夢職人のボランティアになることは憧れであり、一種のステータスとなっている。このことがボランティアのモチベーションを喚起し、より積極的な参加と責任感を生み出している。なお、ボランティア契約は1年ごとの更新制となっており、ボランティアも年額2,400円の会費を支払って参加している。

### ●すべての事業活動にボランティアが参画

夢職人のボランティア活動は、大きく3種類に分かれる。1つ目は、プログラムの当日スタッフとして子どもたちの活動サポートを行う一般ボランティアである。

2つ目は、プログラムの企画・運営を担うプロジェクトチームのボランティア。例えば、3月の野外活動の企画を考え、準備から当日の運営、報告までを担当し、概ね2カ月間ほど活動する。プロジェクトは、毎月のプログラム企画のほか、キャンペーンやシステム管理など様々なプロジェクトチームが並行して活動しており、人によっては複数のプロジェクトを掛け持ちしている。

3つ目は、ユースリーダーといわれる事業を統括するボランティアである。年間を通じて、キッズクラブのような個別事業の管理・運営から広報、会員管理、ボランティア採用などの管理業務についてもチームに分かれて担当する。

このように、夢職人では、事業から管理業務まで幅広く団体の活動を支えるボランティアに、スタッフと同様の責任感とプロ意識を求めている。

### ●ボランティア育成もミッション

ボランティア主体の企画・運営を機能させるために、夢職人では体系化されたボランティア育成の仕組みを用意している。

ボランティアが参加するすべての活動には、必ず事前と事後の研修があり、活動だけに参加することはできない。事前研修では、子どもへの対応方法や心構え、プログラムおよび個人それぞれの目標と成果指標を設定する。基本的な指標は用意されているが、さらに自分独自の指標を追加し、その妥当性についてチームで議論を行う。事後の研修では、実施した活動について個人とチームで評価し、次の活動に活かす努力を地道に行っている。

研修は、プログラムの長短に関わらず、必ず実施する。その他、団体内のSNSなどを活用して、積極的な意見交換が行われている。また、ボランティア自身の成長も測ることができるように、研修を含めたすべての記録を管理している。これは、ボランティアとして関わっている若者の成長も夢職人が目指すミッションの一部分と捉えているためである。

## 3 事業の成果と課題

### 広がる教育の循環

キッズクラブをはじめとする社会教育プログラムの展開によって、子どもたちを中心とした新たなつな

がりが生まれている。地域の学校と連携した「土曜学習」では、夢職人のボランティア、教職員、保護者などが協力し、子どもたちの習熟度に合わせた補講を展開している。なお、連携を行ううえで重視していることは、共通の課題を明確にすることである。つながることだけを目的とした連携は、具体的な活動に発展しにくく、すぐに形骸化してしまう。

また、キッズクラブを卒業した子どもたちが、ボランティアスタッフとして卒業後も活動に参加するケースが増えてきており、教育の循環が生まれている。このような目的と意思を持った“つながり”を軸に、さらなる活動に取り組んでいきたいと思っている。

### 信用を軸とした広報戦略

現在は、利用者や地域から大きな信用を得ているが、事業が軌道に乗るまでは参加者がなかなか集まらず、広報に苦勞した。当時から、体験参加者の約7割以上が正式に会員登録をするなど、サービスの満足度には定評があったが、このサービスの良さをどのように伝えていくのが課題であった。特に、参加費を無料で行っていた活動初期は、中心的な広報手段として学校でのチラシ配布が有効であったが、サービスの有料化に伴ってチラシ配布を禁止された影響が大きかった。

そこで、夢職人では、サービスの良さを伝えるために、「体験参加の機会を増やすこと」、「サービス提供者の信頼性を高めること」の2点に重点を置いて広報を実践した。具体的には、体験メニューの整備と体験キャンペーンの実施、地域のお祭りへの参加など顔の見える関係性の構築と、活動写真や参加者の声の積極的な発信による“活動の見える化”を行った。このような地道な広報の成果もあり、参加者は順調に増加している。

## 4 今後の展望

### 活動エリアの拡大

現在は、主に江東区が活動エリアだが、徐々に周辺地域からの参加者が増えてきている。今後は江戸川区など新しい地域への活動拡大を目指していきたい。

### 支援による対象者の拡大

母子・父子家庭や低所得者層の家庭を対象に、費用負担の少ないプログラムの開発を検討している。そのために、参加者が費用の全額を負担しなくてもよいように、寄付などの獲得も視野に活動を展開していく。

(ヒアリング応対者：代表理事 岩切 準氏)



事業を成長させていくうえで、中間支援組織が提供する研修は非常に重要だと感じている。日々の業務から離れて、事業を俯瞰するまたとない機会であり、新しい知識をインプットする場でもある。このような機会を活用して、事業をステップアップしていくことが可能となった。また、2007年度NEC社会起業塾、2009年度ゴールドマン・サックス教育社会起業家・NPO支援プログラム（主催：(特活)ETIC.）、2010年度Panasonic NPOサポート課題解決プロジェクト（主催：(特活)NPOサポートセンター）といった研修を組織の成長課題に応じたタイミングで受講できたことも成果につながった。これから受講を検討する団体には、研修の内容や特徴を理解し、適切なタイミングでの受講をオススメしたい。





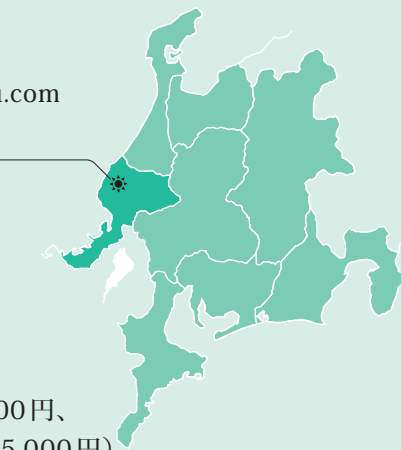
特定非営利活動法人

# 自然体験共学センター

## 子どもたちの「ちょっとチャレンジ!」を応援します

所在地…〒910-0005 福井県福井市大手2-16-37  
TEL…0776-21-2216 FAX…0776-24-8603  
URL…http://www.kyougaku.com/ E-Mail…info@kyougaku.com

福井県福井市



1

### 団体の概要

代表者名…辻 一憲  
設立年月…2001年4月 認証日…2004年3月10日  
有給スタッフ数…常勤/5名、非常勤/1名  
事業規模(09年度決算収入)…33,572,000円  
(内訳:自主事業収入16,428,000円、受託事業収入7,182,000円、助成・補助金9,118,000円、寄付金709,000円、その他135,000円)

### 活動の目的・趣旨

日本の豊かな自然環境を活用した自然体験教育事業や自然環境保全事業を通じて、青少年の健全育成、国民の豊かな余暇生活の構築及び自然環境の保全に寄与することを目的とする。

### 団体の設立経緯

自然体験教育活動の普及と発展を目指して長野県に設立された(特活)グリーンウッド自然体験教育センターが、北陸における自然体験活動に力を入れるために、2001年に同法人の福井事務所をスタートさせた。以後、様々な自然体験活動や人材育成事業に取り組み、北陸における自然体験活動の一層の充実を図ることを目指して、(特活)自然体験共学センターとして同法人より独立。2005年より廃校を拠点に「ふくい森の子自然学校」を開設し、自然体験活動を中心とした活動を行っている。

### 主な活動内容

#### ① 幼児～中学生を対象とした事業

- ・夏の自然体験キャンプ：夏休み期間中の自然体験活動や野外活動
- ・ふくい森の子自然学校：一年を通した四季折々の自然体験活動
- ・冬の里山自然遊楽：冬休み期間中の自然体験活動や年末年始の行事・文化活動
- ・ちびっこ春キャンプ：春休み期間中の自然体験活動

#### ② 青年を対象とした事業

- ・人材育成事業：CONE各種指導者養成講座
- ・ふくいエコ・グリーンツーリズム：地域行事や子どもたちの自然体験活動のお手伝い

## 2 主な教育関連事業の紹介

### 事業名称 夏の自然体験キャンプ

#### 作る・感じる・考えることがねらい

夏の自然体験キャンプは2002年から毎年開催し、2010年で9回目を迎えた。福井市上味見(かみあじみ)地域をフィールドに、関西や福井県内の子どもたちに夏の自然体験活動や野外活動の機会を提供している。

生きる力をサポートするとともに、子どもたちの森・川・里山などの環境に対する意識を高め、自己表現力、創造力、集団生活において育てられる人間関係形成能力の育成を支援することが、夏の自然体験キャンプのねらいである。

#### 仲間とつくる、子どもが主役のキャンプ

夏休み期間に1泊2日～6泊7日までのコース・組を15組程度設定している。コースは、以下の4つに分かれており、いずれのコースも自分で参加を決意することが参加条件になっている。

##### ① ベーシックコース(参加対象：小1～小6)

キャンプの基本を体験し、自然・暮らし・仲間を大切に思う気持ちを育てる。活動は、会議で子どもたちが話し合いで決めていく。

##### ② スペシャルコース(参加対象：小1～中3)

テーマと地域との関わりをより深めた自然体験・生活体験・創作活動などを通して、自然や暮らし、協働、地域への理解をさらに深める。

##### ③ チャレンジミニコース(参加対象：小3～中3)

チャレンジコースへのトライアルコース。森の中での暮らしと活動にチャレンジする。

##### ④ チャレンジコース(参加対象：小3～中3)

長期間の自然・仲間・地域との関わりを通じて学びと理解をより深めるとともに、チャレンジ精神、社会性の育成を目指す。



スタッフ自作の森の中のツリーハウス

#### 「森の子のおきて」と安全教育

キャンプの初日に、「森の子のおきて」を規則としてではなく努力目標として全員で必ず確認する。「森の子のおきて」には、「その1. 君たち子どもが主役だ。その2. 食事は自分たちで作る。その3. チャレンジが基本だ。その4. みんなで仕事、楽しい生活。その5. あいさつをする。その6. 仲間はずれは許さない。その7. 健康で安全に暮らす。その8. 山や川は大事な友だちだ。」と記してある。

「森の子のおきて」を全員で確認することで、子どもたち自身でみんなが楽しめるキャンプや活動をつくり上げるという動機づけとなり、自分の身は自分で守るという安全教育を主体的に学べるねらいがある。

キャンプ初日に行う「森の子会議」(日程づくり)で、子どもたちと相談しながら、子どもたちのやりたいことを行う。最初、親は心配しているが、何をやりたいか子どもたちに事前に考えてきてもらっており、楽しみながら参加できるようにしている。

#### 大切な地域との関わり

子どもたちは近所の農家で赤かぶらなどの野菜の収穫や、「伊自良(いじら)の里」振興協会の協

力を得て、伊自良祭など地元の祭りに保護者や子どもたちが参加するなど、地域とのふれあいを大事にしている。

## 事業名称 ふくい森の子自然学校

### からだいっぱい、自然と出会い、大好きな自分に出会う

福井県内の子どもたちに、上味見地域をフィールドとして、自然・人・暮らし・文化・伝統に触れながら、四季の環境を活かした体験活動の機会を提供している。年間を通して活動を行うことで、四季の移り変わりを感じるとともに、福井の自然・環境・人・文化の好きな子どもたちを育てることが、ふくい森の子自然学校のねらいである。

### 自然、生活、仲間を視点とした活動をする年代別活動

期間は5月～翌年2月の間で、日帰り～1泊2日の日程で各日定員15～20名で開催する。年代別に以下の3つの活動を「自然」「生活」「仲間」の3つの視点で目的を設定して活動する。

#### ①幼児向け活動（参加対象：年中・年長）

春の生き物さがし、森探検、川遊び、落ち葉遊び、秋の木の実さがし、雪遊びなどを行う。

#### ②低学年向け活動（参加対象：小1～小3）

里山散策、草木染め、水生生物さがし、秋の生き物さがし、野菜の収穫、雪遊びなどを行う。

#### ③高学年向け活動（参加対象：小4～中3）

ハイキング、生き物観察、乗馬体験、雪山散策などを行う。

### 親子で参加できる畑と田んぼの活動

親子で参加できる活動で、対象は年中～中3の子どもとその保護者である。

自分たちの手で米や野菜を育てることによって、食のありがたさや生命の不思議さ、達成感を感じてもらうとともに、体を動かす喜びや爽快感を味わうことができる。また、年間を通して食物を育て、自分たちで収穫したものを食べることで、生き物の成長過程を学び、農作業の楽しさ、大切さ、食べ物本来のおいしさが分かる人を育てることが目的である。

活動内容としては、もち米の苗の田植え、田んぼの世話、ジャガイモの収穫、稲刈り、冬野菜の種まき、脱穀、粳攪り、サツマイモの収穫、餅つきなどを行う。素手での田植えが初めての保護者の参加も多く、子どもと一緒に感動を味わえると好評である。



泥んこになりながらの田植え

## 3 事業の成果と課題

### 北陸・近畿圏の多くの自治体・教育委員会からの後援

自治体では、福井県、京都府、大阪府、兵庫県、福井市からの後援を受けている。また、福井県、京都府をはじめ近隣の県・市など15以上の教育委員会が後援しており、小中学校に対して夏の自然体験キャンプのチラシを配布するなど広報協力をしている。

自治体や教育委員会に対して事業報告を行うとともに、後援継続の依頼活動をしているが、スタッフ数も限られているため、自治体への訪問は2～3年に1回になってしまうところもある。夏の自然体験キャンプなど福井市で実施するイベントに対して、他府県の自治体から後援を得るのは厳しくなってきた。

### 継続的な参加者確保のための工夫

福井県内は、自然体験共学センターが教育委員会経由ですべての小・中学校へアプローチしているが、県外は、自然体験共学センターが直接、児童数の多い小・中学校へ、夏の自然体験キャンプのチラシを配布して参加者獲得に努めている。

参加者の4割程度がリピーターとして参加しているが、継続的に参加者を確保することには、地道な努力が必要である。

また、ふくい森の子自然学校も、2010年で6回目を迎えたが、最近は、高学年になるにつれて、土曜日にクラブ活動や塾通いがある子どもたちも多くなっている。そのため、日曜日の日帰りコースを設定したり、年代別教室では同じ日程のコースも設定したりして、兄弟姉妹が参加しやすくしている。

福井県は共働き率が約40%と日本一高いため、保護者が送迎できる時間帯にコースも設定し、参加しやすい工夫をしている。



CONE指導者養成講座で熱心に学ぶ指導者たち

## 4 今後の展望

### 指導者の育成にも力を入れて地元の期待に応える

夏の自然体験キャンプやふくい森の子自然学校などが開催されている時期になると、「廃校になった小学校から、子どもたちの元気な声が聞こえるのは嬉しい」という地元住民の声も多く、今後も四季折々の自然体験活動や人材育成活動に継続的に取り組んでいきたい。

夏の自然体験キャンプや森の子自然学校などに関わるスタッフの多くが、(社)日本ネイチャーゲーム協会やボーイスカウト、ガールスカウトなど全国で自然体験活動を行っている団体が加盟し、自然体験活動の普及活動を行っている(特活)自然体験活動推進協議会(通称：CONE)の自然体験活動指導者育成制度でトレーニングを受け、トレーナー、インストラクター、リーダーなどの資格を有している。

自然体験共学センターでも、CONEのリーダーカリキュラムを基にしたCONE各種指導者養成講座も実施しており、今後の活動に向けてのリーダーの育成も、根気よく続けていきたいと思っている。

(ヒアリング応対者：事務所長 長田信恵氏、都市農村交流員 伊藤弘晃氏)



自然活動を行う団体では、指導者にも安全面など高い資質が求められる。トレーナー、インストラクター、リーダーなどの活動の幅を広げるために、本文中でも紹介したCONEの自然体験活動指導者育成制度を活用したトレーニングがおすすめである。





特定非営利活動法人

# えがおつなげて

## こどもファームの元気が、地域の元気になる！

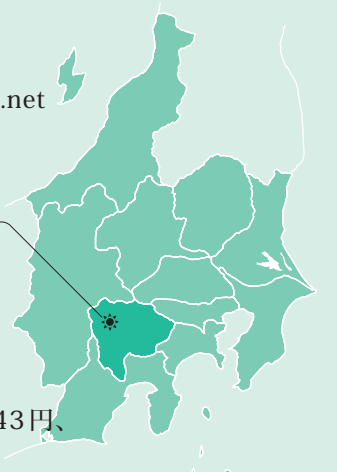
所在地…〒408-0313 山梨県北杜市白州町横手 2910-2  
TEL…0551-35-4563 FAX…0551-35-4564  
URL…http://www.npo-egao.net/ E-Mail…egao\_info1-all@npo-egao.net

### 1

#### 団体の概要

代表者名…曾根原久司  
設立年月…2001年2月 認証日…2001年6月5日  
有給スタッフ数…常勤/13名、非常勤/10名  
事業規模(09年度決算収入)…108,538,823円  
(内訳：事業収入57,278,896円、会費343,192円、補助金49,364,243円、  
その他1,552,492円)

山梨県北杜市



#### 活動の 目的・趣旨

地域共生型の市民ネットワーク社会をつくるために、それに必要ないろいろな社会的要素、たとえば農林水産業、教育、医療福祉、地域産業、環境、文化といったもののあり方を、まちづくりや、人づくりの観点から研究提案し、かつそれらが、社会の機能として実際に働くように社会の仕組みをつくって運営する事業を行い、もって地域社会および日本社会に暮らす人々全体の利益の増進に寄与することを目的とする。

#### 団体の設立経緯

「えがおつなげて」は、1995年に代表理事の曾根原氏が東京から山梨県北杜市に移住し、都市と地方を結ぶ社会モデルの形成を目指して農業と林業を営みながら個人として行っていた活動を引き継いで設立された団体である。

曾根原氏は、耕作放棄地を開墾して復活し、荒れている森林を買い、伐採し販売も行い、規模を広げていった。自給自足的な農・林業生活が可能であることを示し、その暮らしの様子や生産物についてフリーペーパーなどで情報を発信した。

新聞やテレビなどにも取り上げられ、共感する人々が広がるなか、1999年からは都市に住む人、農村に住む人、両方に呼び掛けたワークショップを開催した。これにより、曾根原氏の農場に様々な人々が集まるようになり、連携しようとする動きも出てきた。

こうした、都市と農村が多様な形で交流・連携しながら地域を活性化していく活動をさらに広げるため、2001年に「えがおつなげて」が設立された。NPO組織としたのは、気軽に参加しやすく、個人、企業、行政、大学など、いろいろな立場の人が集まりやすく、ネットワークしやすいことによる。

#### 主な活動内容

- ① 子どもの健全育成を図るための調査研究、およびその運営に関連する事業  
「こどもファーム」、「目黒区ファーム」など
- ② まちづくりの推進を図るための調査研究、開発、およびその運営に関連する事業

- ③ 環境の保全を図るための調査研究、開発、およびその運営に関連する事業
- ④ 保健、医療または福祉の増進を図るための調査研究、およびその運営に関連する事業
- ⑤ 文化、芸術またはスポーツの振興を図るための調査研究、およびその運営に関連する事業
- ⑥ 社会教育の推進を図るための調査研究、およびその運営に関連する事業
- ⑦ 上記の事業を推進するためのイベント事業その他

### 2

#### 主な教育関連事業の紹介

事業名称 「こどもファーム」「目黒区ファーム」

#### 1. 種まきから収穫、加工まで体験する「こどもファーム」

子どもたちが直営農場「えがおファーム」で種まきから収穫、加工まで、年間を通して農作業を体験する。野菜がどのように大きくなっていくのか、その過程や農業と食との関連を知ることができる。

2010年のプログラムは、5月1日から6月3日を募集期間とし、6月に青大豆の種まき、7月に草取り、7～8月に1泊2日の「こどもキャンプ」、10月に収穫体験、11月に収穫した豆を使った味噌仕込みとなっている。こどもキャンプでは、野菜の収穫や野外調理、川遊びなどを行う。仕込んだ味噌はおみやげとして持ち帰りができる。

参加費は、キャンプは別費用として年間3,150円。(財)山梨福祉財団助成事業となったため、参加費を下げる事ができた(2010年)。

2001年から実施しており、毎年、50～60人が参加し、リピーター率が高い。また、インストラクターとして、地元の農業者に子どもたちへの指導をお願いしている。



自分たちが収穫した野菜で食事をつくる

#### 2. 目黒区の小学生が農業体験する「目黒区ファーム」

目黒区の教育委員会からの依頼を受け、小学生への1日農業体験「目黒区ファーム」を実施している、こどもファームで行っているメニューの1日版である。

1回あたりの参加者は、学校単位での参加であるため学校の規模によって幅があり、40～100人である。プログラムの内容は、時期により田畑の作業が変わってくるので、目黒区教育委員会や先生方と相談して決定する。例えば、トウモロコシやトマトの収穫などが試食付きで行われたり、林業体験もある。

1年に1回とはいえ、子どもの頃にこうした経験があるのと全くないのでは、大きな差があると考えている。

### 3

#### 事業の成果と課題

#### 子どもたちの価値観形成と農山村活性化の相乗効果

都市部に住む子どもたちは、自然が豊かな農山村で土に触れ合うことによって、価値観の形成が大きく違ってくる。また、その場所となる農村では、耕作放棄地が継続的に活用される仕組みが生まれ、さらに人々との交流が始まり、地域が活性化される。

曾根原氏は、こどもファームや目黒区ファームなどにより、こうした相乗効果が生まれると考えている。「えがおファーム」のある地域は高齢化率が60%を超え、小学生は全部で7人、中学校は廃校になっている。

指導する地元の農業者は、孫が遊びに来たような感じで子どもたちと接し、教え方も大変上手で、悪いやり方には「それはダメ」としっかりと伝えている。子どもたちも素直に聞くそうである。子どもたちが年配の人に教わるよい機会になっている。



耕作放棄地で農作業を学ぶ

## 担当を明確にし、10年間無事故

「えがおつなげて」では、時期によっては毎週末、農業体験やワークショップを受け入れている。繁忙による混乱を避けるため、15分単位の役割分担表を作成して一人ひとりが何をするかを明確にし、事前準備を丁寧に行って情報を共有している。

また、事前に起こりうる問題をスタッフの間で洗い出しておくリスクマネジメントも行っている。山村の3大リスクは、マムシ、ハチ、ウルシである。マムシに対しては、近くの病院に連絡し血清の用意を依頼し、ハチとウルシについてはガイダンスで写真を見せながら近寄らないように説明している。これまでの10年間に、事故は起きていない。

基本は、10人の子どもに対して1人のインストラクターがつく態勢で臨み、参加人数が多くなると、インストラクターの数を増やしている。

こうした運営には、曾根原氏の経営コンサルタントとしてのノウハウが活かされ、plan（計画）—do（実行）—check（評価）—act（改善）のPDCAサイクルを取り入れ、募集から実行、財務も含めて全体を管理している。

## 耕作放棄地が学びや交流の場になる

農地、森林、人といった様々な農村資源をいろいろな形で活用するため、「えがおつなげて」の活動は多岐にわたっている。

都会の若者たちに耕作放棄地を開墾してもらい農地を広げていく「えがおファーム」のほか、都市部の様々な企業と提携して耕作放棄地を耕し、復活した農地で様々な事業を行っていく「企業ファーム」なども運営している。食材について勉強しようと企業ファームに参加した和菓子店が、開墾をした農地で作った大豆を使った新商品を発売したところ、大ヒットし、店のメイン商品になった例もある。企業ファームは現在10社に広がっている。地元の木材を使った箱膳をつくり、旬の作物を使った郷土料理を器に盛り、伝統的な食事をするを通じた食育を進める事業もある。

開墾ボランティアに参加した若者たちのなかにはこの地域に移住してスタッフとなった人や、独立し結婚して子どもも誕生、北杜市内で営農している若者もいる。彼らが、現在、後続く若者のモデルとなっている。

## 4 今後の展望

### 農山村と都市をつなぐ人材を育てる「学校」づくり

「えがおつなげて」は2008年に「えがおの学校」を開校し、都市のニーズと地域の問題解決を結び

付ける人材の育成にあたっている。都市部での自然志向、田舎志向が高まるなか、そうした都市住人のニーズを満たすものが農山村地域にはまだ息づいているが、両者を結び付ける人材が不足しているとの認識から始められた。今までに山梨、福島、三重、福岡、熊本の5拠点で151人が受講した。

2009年には「関東ツーリズム大学」も開校した（学校教育法で定められた大学ではない）。キャンパスを山梨県のみならず、長野、埼玉、栃木、千葉、茨城、東京の都県に広げ、これらの地域でインターンや研修事業を行っている。

「えがおつなげて」が全体のコーディネートを行い、キャンパスごとにそれぞれの担当者が運営にあたっている。カリキュラムは、金融機関を対象とした経営コンサルタントの経験を持ち、地縁血縁のない土地で新規就農した曾根原氏のノウハウを中心に組まれている。

入学審査では本人の意欲が主たる基準となる。精神的に多少不安定な若者が、自然のなかで土に触れ作物を育てることにより、大地にしっかり立ち農業者として独立した例がある。卒業生の何割かは農山村地域で農業に従事している。これまでのところ中退者は出ていない。



曾根原代表理事

さらにこれらの実績をもとに、2010年には農山漁村の活性化と雇用促進のための「えがお大学院」も開校した。社会起業家支援コースと農村インターンコースがあり、9～12月の約3カ月間研修するもので、2010、2011年度内閣府・地域社会雇用創造事業として行われている。

関東ツーリズム大学に続き、2011年4月には名神ツーリズム大学も設立する。今後も「えがおつなげて」では、北杜市での活動を継続するとともに、この15年でつくり上げた実績を他地域にも広げ、多拠点化する予定である。

（ヒアリング応対者：代表理事 曾根原久司氏）



「えがおつなげて」は、経営が難しいといわれる農林業で収益を上げるモデルをつくることから始めた。「思い」から出発するNPO法人も、事業を行っているのだから継続することが前提である。メンバーが費用を負担する、いわゆる「持ち出し」といわれる運営資金は、経営面から見れば投資にあたる。先行投資は必要だが、投資は回収の見込みのもとで行うもの。こうした経営面についてのノウハウは、ないよりはあったほうが、活動の継続に有利だと考える。



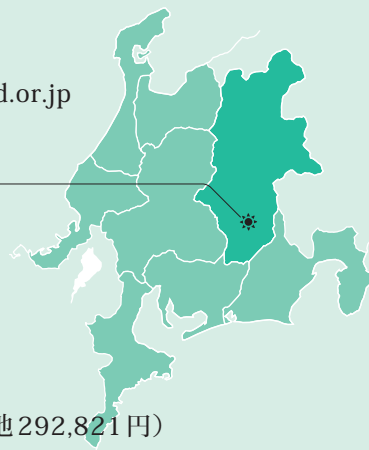


特定非営利活動法人

# グリーンウッド自然体験教育センター

## 山村の暮らしから学ぶ、未来をつくる「ねっこ教育」

所在地…〒399-1801 長野県下伊那郡泰阜村6342-2  
TEL…0260-25-2851 FAX…0260-25-2850  
URL…<http://www.greenwood.or.jp/> E-Mail…[info@greenwood.or.jp](mailto:info@greenwood.or.jp)



長野県下伊那郡泰阜村

1

### 団体の概要

代表者名…辻 英之  
設立年月…1993年 認証日…2001年4月12日  
有給スタッフ数…常勤/13名、非常勤/1名  
事業規模(09年度決算収入)…98,589,121円  
(内訳:事業収入74,210,129円、補助金24,086,171円、その他292,821円)

#### 活動の 目的・趣旨

日本の豊かな自然環境を活用した自然体験教育事業を推進し、青少年の健全育成及び国民の豊かな余暇生活の構築に寄与することを目的とする。

#### 団体の設立経緯

グリーンウッド自然体験教育センター(以下、グリーンウッド)の始まりは、1986年に東京の幼稚園教諭・梶さち子氏(現・グリーンウッド会長)が長野県の泰阜(やすおか)村で1年間のキャンプを開催したことにさかのぼる。

夏キャンプを通じて、子どもたちがもっと自由に主体的に自然の中で関われたらよいという想いと、1年間の共同生活を通じて四季折々の自然体験ができればと考え、1年間のキャンプを始めた。キャンプに参加した子どもたちは、とても元気でイキイキしていた。そこで梶会長は、これからの時代は自然体験教育が重要になると確信し、毎年キャンプを実施した。

当初2泊3日だったキャンプは、もっといろいろな体験ができるように3泊4日になり、それが1週間、1カ月へと延び、やがて1年間の長期にわたるものになった。

戸塚ヨットスクール事件がマスコミに盛んに報道されていたこともあって、泰阜村には村の小学校で他地域の子どもを受け入れることに反対する住人もいたが、梶会長は何度も説明会を開き、理解してもらった。1993年には、山村留学を受け入れる任意団体グリーンウッド遊学センターを立ち上げ、2001年にNPO法人となった。

#### 主な活動内容

##### ①自然体験教育事業

山村留学をする暮らしの学校「だいだらぼっち」や「信州こども山賊キャンプ」など

##### ②各事業に関する指導者の研修及び養成

自然体験の指導者となる相談員を養成

##### ③安全教育

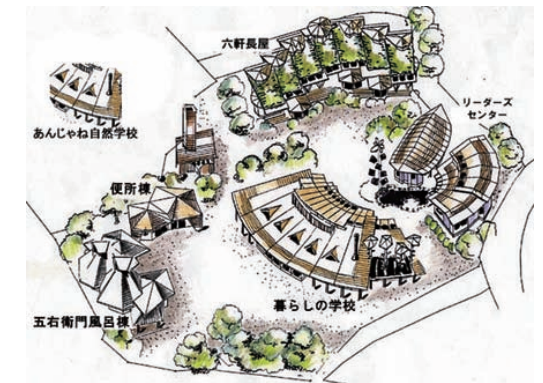
救急救命法講習(MFA講習)や自然体験指導者のための各種講習会

##### ④国際理解教育

「Kids' AU(子どもたちのアジア連合)」を開催

##### ⑤地域づくり事業

「伊那谷あんじゃね自然学校」における泰阜村との協働



グリーンウッド施設配置図

2

### 主な教育関連事業の紹介

#### 事業名称 自然体験教育事業

#### 1. 山村留学・暮らしの学校「だいだらぼっち」

おおよそ小学3年生から中学3年生までの子どもたちが親元を離れ、泰阜村の小中学校に通いながら宿泊棟で1年間の共同生活をするプログラムである(2010年度の参加子ども数は8人)。事業名は、天竜川沿いに伝わる民話に出てくる、気はやさしくて力持ちの大男・だいだらぼっちの話から採られた。

4月に全国から泰阜村にやってきた子どもたちは、まず、暮らしに必要なこととやりたいことを話し合い、1年間のスケジュールを立てる。だいだらぼっちでは、重要事項はすべて子どもたち自身の話し合いで決められる。

##### ●子どもの自主性を尊重する

グリーンウッドでは、子どもたちは誰でも自分たちのやりたいことや夢を持っていると考えている。それを実現するために大人も一緒に考えつくり上げていく。また、安全にできるようにサポートしている。

暮らしに必要なこととは、例えば炊事・洗濯や、風呂に入るための薪割りや風呂焚きである。泰阜村の暮らし方に学び、手の届く範囲での自給自足を目指して田んぼや畑の仕事もする。やりたいこととは、登山や川遊び、きのこ狩りなどで、子どもたちは四季折々、泰阜村の豊かな自然を楽しんでいる。

入学は、見学、体験合宿、面接によって決定される。判断基準は、本人のやる気である。本人の意思がないままに親先行で決めてしまうとよくないと考えている。

毎日の共同生活では、ときに思わぬ出来事やトラブルも起きるが、共同生活を通して子どもたちは自分と他者との違いに気づき、協力しなければ暮らせないことを知り、思いやりや社会性を学んでいく。

また、安全のため、必ず宿直の大人1人が宿泊棟に入っている。



だいだらぼっちの子どもは、薪割りもお手のもの!

#### 2. 1,000人以上が参加する「信州こども山賊キャンプ」

「信州こども山賊キャンプ」は毎年、夏に約1,100人もの子どもたちが参加する2泊3日のキャンプで、小学1年生から中学3年生までの異年齢の子ども20～50人のグループに分かれて実施している。山村留学の短期版であり、「だいだらぼっち」同様に、子どもの自主性を基本として行われる。



キャンプ場に到着した子どもたちはまず「山賊会議」を行い、オキテと呼ばれるルールを決めるとともにやりたいことを自分たちで決めていく。オキテは、あいさつをする、ご飯は自分たちで作るなど、キャンプで必要なことである。やりたいことには、箸づくりなどの工作や、きもだめし、川遊びなどが選ばれている。照明のない夜道を歩くきもだめしをキャンプ一番の思い出に挙げる子どもは少なくない。

## 事業名称 **各事業に関する指導者の研修及び養成**

### 相談員養成事業

グリーンウッドは、将来教育者や指導者を目指す若者が、山村留学の子どもたちと生活を共にしながら実践で教育を学ぶ1年間の教師・指導者プロジェクトを実施している。

彼らはリーダーや先生ではなく、相談員と呼ばれる。相談員は子どもたちと同じ目線で話をし、いっしょに考え、悩みながら子どもとともに成長する。また、子どもたちの相談にのる過程で、さまざまな出来事にぶつかるうちに、「大人としての役割」に気づき、自らの価値観を確立していく。

山賊キャンプのボランティアも同様に相談員と呼ばれる。山賊キャンプも、相談員の学びの場として、相談員が子どもたちといっしょに考え、行動することで、自分の役割に気づいていく。山賊キャンプには、子どもの頃にこのキャンプに参加したOB・OGを含め、全国から300人を超すボランティアが集まっている（2010年実績）。

またグリーンウッドでは、先生になりたい人のための体験学習ワークショップも開催している。予測しないことが続発する自然のなかでのワークショップを通して個性や成長の過程を大切にすることを学ぶもので、チャレンジ型の川遊びや、土探しから始めて野焼きする陶芸などのプログラムが用意されている。

## 事業名称 **安全教育**

だいだらぼっち・山賊キャンプともに、これまでに1件の事故も起きていない。これはボランティアも含めて、日頃からリスクマネジメントに対する勉強会や研修会を行い、用意周到に準備しているためである。

さらにグリーンウッドでは、万が一に備え、救急救命法（MFA：メディックファーストエイド）の講習を実施し、その普及活動に取り組んでいる。また佐藤理事は、日本で数人しかいない川でのレスキューの指導者を育成するマスターインストラクターであり、辻代表はレスキュー講座を開催できるマスタートレーナーの資格者である。

## 事業名称 **北東アジアの子どもたちが集まる「Kids' AU」の開催**

国際理解教育として、韓国、モンゴル、中国、ロシア、北朝鮮、そして日本、北東アジア6カ国の子どもたちによる「Kids' AU（子どもたちのアジア連合）」を開催し、4泊5日の合同キャンプを2001年から続けている。

子どもたちは言葉が分からなくても、最後には号泣して別れを惜しむ関係になる。かつて参加した子どものなかには、中国に留学した後、日中を結ぶ仕事をしている人も出ている。

## 3 **事業の成果と課題**

### 自然体験教育を終えた子どもたちのその後

だいだらぼっちを修了した子どもたちは、大人になると、第二の故郷としてたびたびグリーンウッドに戻ってくる。だいだらぼっちで過ごした経験を生かして、職業はしっかり自分で決めている。職種は幅が広い。ここで暮らした経験から海外留学をする者も多い。

「暮らしのなかで、やりたい、知りたいと思うことに対して自分で段取りをとれるようになったことが、その後の人生を切り拓く力になっているのではないか」と佐藤理事は話す。グリーンウッドが目指す、泰阜村の豊かな自然環境の中で子どもたちの主体性を育む活動は、20年を経て、目に見える成果となって表れてきている。



グリーンウッドスタッフとその家族

### 地域と共に学ぶ「伊那谷あんじゃね自然学校」

また、だいだらぼっちや山賊キャンプから発展した事業に、地域をつなぐ「伊那谷あんじゃね自然学校」がある。「伊那谷あんじゃね自然学校」は、泰阜村内に暮らす小・中学生を対象として月に一度、開催される。

泰阜村には、山村の知恵や技を伝えることのできる達人が大勢いる。「伊那谷あんじゃね自然学校」では、こうした地域の人材を講師に招き、実演してもらうことを目的としている。例えば、子どもたちの目の前でイノシシをさばいてもらったり、食べられる山菜を教えてもらったりする。子どもたちは目をキラキラさせ、達人たちの動きを追い、憧れ、自然にまねをするようになる。村の人たちも、子どもたちが熱心に聞いてくれるのを見て、昔から受けついできた暮らし方を誇らしく感じるようになる。

グリーンウッドは、子どもたちと村の人々をつなぎ、その知恵や技を受け継ぐ場でもある。最初は「わしは、そんなことできん、やらん」と言っていた人が、子どもたちとの交流をきっかけにNPOを立ち上げ、村議会の議長にもなった例も生まれている。

また、山賊キャンプの子ども1,100人、ボランティア350人が食べる野菜は約1.6トンにのぼる（2010年）が、食材の98%ほどは泰阜村の農家から調達している。「子どもたちが食べるものだから」と、低農薬の野菜づくりを始めた農家も生まれるなど、地域でグリーンウッドの事業を支援する輪が広がっている。

## 4 **今後の展望**

持続可能な社会づくりのために、ねっこ教育を一般家庭に普及していきたい。

そのために、さらに地域の方や山村留学OB・OG、その保護者の皆さまと協働していきたい。また、今後は、社会貢献に取り組む企業の方たちとの協働にも積極的に取り組みたい。

（ヒアリング対応者：理事／事務局長 佐藤陽平氏）



泰阜村の人たちといっしょに25年かけてつくり上げたグリーンウッドへの見学・視察は、大歓迎。これから活動しようというNPOや、協働をしたいという行政や企業の方に、直接活動を見てもらい、語り合う機会は、お互いにとって貴重な場になると考えている。





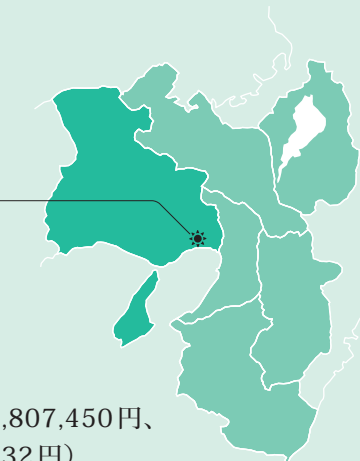
特定非営利活動法人

# ブ레인ヒューマニティー

## もっと子どもと、ずっと近くに

所在地…〒662-0832 兵庫県西宮市甲風園 1-3-12  
TEL…0798-63-4442 FAX…0798-63-5551  
URL…http://www.brainhumanity.or.jp/  
E-Mail…info@brainhumanity.or.jp

兵庫県西宮市



1

### 団体の概要

代表者名…能島裕介  
設立年月…1994年5月 認証日…2000年3月1日  
有給スタッフ数…常勤/4名、非常勤/約31名  
事業規模(09年度決算収入)…94,091,485円  
(内訳:事業収入57,261,069円、会費700,500円、寄付金1,807,450円、委託金32,558,312円、補助金1,580,822円、その他183,332円)

#### 活動の 目的・趣旨

青少年及びそれに関わる個人、法人、その他団体等に対し、青少年が自己認知し、自分らしく生きるための支援を行い、もって広がりのある社会の創造に寄与することを目的とする。

#### 団体の設立経緯

1994年に家庭教師斡旋事業を開始した代表の能島氏ら学生4人は、翌年に阪神・淡路大震災を経験。このことが転機となり、被災した子どもたちを支援するため、訪問学習支援活動を展開した。その後、活動の幅を徐々に広げ、現在は800人近い学生ボランティアが運営の中心となり地域の子どもたちへのレクリエーション活動、不登校の子どもたちへの支援、海外におけるワークキャンプの活動など、多岐にわたる活動を実施している。

#### 主な活動内容

##### ①レクリエーション事業

キャンプやスキーツアー、日帰りのハイキングなど様々な体験プログラムを通じて子どもたちの成長に寄与する活動。

##### ②国際交流活動

海外での国際ワークキャンプやスタディーツアーの実施、国内での国際交流プログラムなどを通じて、青少年が国際的な視野を持つことを支援している。

##### ③学習支援事業

子どもの貧困撲滅プロジェクト“Chance for Children”など、小学生から高校生までの児童・生徒に、家庭教師や補習教室の運営などの学習支援を行い、青少年の基礎的な学力を養いその選択肢を広げる。

##### ④不登校支援事業

不登校の状態の子どもたちに対し、学習支援や様々な体験活動を提供し、不登校の子どもたちの選択肢を広げている。

##### ⑤各種受託事業

行政機関等からの委託を受け、子どもたちや青少年の選択肢を広げるため、多様な事業を実施している。

##### ⑥その他の新規事業

社会の変動や子どもたちのニーズに速やかに対応するため、日々、様々な新規事業を開発している。

## 2 主な教育関連事業の紹介

### 事業名称 レクリエーション事業

野外活動等のレクリエーションは、設立時から定期的に開催している。夏休みや冬休みなどの長期休みにキャンプやスキーを数日間行うほか、短期キャンプを定期的に実施している。また、遠足やバーベキュー、工場見学などの日帰りプログラムは、ほぼ毎週開催している。対象は主に小学生で、参加する子どもの募集は、会員である800家庭を中心に告知している。キャンプは20～60人、ピクニック等は90名程度で、多いときには約200名が参加した。

### 大学生ボランティアがレクリエーション運営のリーダー

いずれのプログラムも、多くの大学生が主体的に企画・運営のすべてを担う。多くの大学生はボランティアであるうえに、参加費や交通費も自費である。彼らは、自らを高めようとする意欲や、企画を円滑に成功させようとするプロ意識を持って、自分の役割に徹している。

学生たちが参加する理由は、子どもに対する思いもあるが、先輩や仲間の姿を見的过程中で憧れを持ち、自分もやってみたいという思いに繋がっているようである。ボランティアの大学生にとっても、多様な価値観を持つことや視野を広げること、そして一つの目標に対して主体的に動いて目的を達成し、自己実現に向けて成長する場にしてもらいたいと考えている。

さらに学生たちが、数年後に足を踏み入れる社会において役立つ様々な能力や意識を身につけ、社会で活躍する人材を送り出せればと願っている。実際、活動の中心として関わってきた学生たちは、就職採用試験の面接の場などでも、この実体験について自信を持って語るなど、有意義な経験となっている。



日常では味わえない体験の連続を満喫する子どもたち

### 事業名称 国際ワークキャンプ

### 海外で働く経験をする国際ワークキャンプ

国際ワークキャンプでは、海外でホームステイしながら現地で必要とされている仕事にボランティアとして取り組むほか、異文化交流を通じた体験型学習を行う。

参加者は毎回30名程度であり、マレーシア、フィリピン、タイなど、これまでに7カ国で実施した。



国際ワークキャンプ。現地で求められているワークをボランティアで行う

高校生や大学生が中心であるが、2年前からマレーシアについては中学生まで対象を広げている。

これまでの参加者の感想の中には、「仲間や現地の方と過ごす中でコミュニケーションの重要性を強く感じた」、「異文化に触れ多様な価値観を身につけた」など、それぞれにとっての人生の価値基準や幸せの意味などについて考える貴重な機会となっているようである。



## 事業名称 子どもの貧困撲滅プロジェクト“Chance for Children”

現在、日本の子どもの7人に1人が貧困状態にあると言われている。この貧困が原因で、学校外の学習機会が減り、低学力・低学歴に陥る結果、大人になっても貧困から抜け出せないという悪循環が起きている。

時代に合わせて社会課題に取り組んでいるブレインヒューマニティーで近年力を入れているのが、子どもの貧困撲滅プロジェクト“Chance for Children”である。これは、経済的理由で学校外教育を受けることが困難な生活保護世帯の子どもの対象として、塾や予備校等のサービスや、野外活動・社会体験活動等のプログラムに利用可能なクーポンを提供する活動である。

### 活動原資を会費・寄付から集める

クーポンの原資となる資金は、会員制度と寄付によって集めている。継続的に支援する会員制度では支援額に応じた5つのコースを設け、コースに応じた特典（交流パーティーへの招待、利用者からの手紙など）が提供される仕組みになっている。

また、寄付については街頭での募金活動など直接的なもののほかに、「Book Raising」がある。「Book Raising」とは、(株)バリューブックスが運営する社会貢献活動で、家庭や企業で不要になった古本を寄贈すると、その買取相当額が参加するNPOなどに寄付される仕組みである。ブレインヒューマニティーは、「Book Raising」の寄付先の一団体として参加している。

### 教育格差を縮めるクーポン券

対象の子どもに配布されるクーポン券は一人あたり25～50万円である。ブレインヒューマニティーが開催する個別学習や野外活動をはじめ、他団体が提供する教育サービスがラインナップされた中から、子どもたちが自らの意思によって選択し、活動に参加したりサービスを受けたりすることができる。自ら選択することで、学ぶ意欲が高まり、教育的効果も高まる相乗効果が得られている。



Chance for Childrenの募金活動を行うボランティアの学生

## 3 事業の成果と課題

### 事業の横展開

設立から現在に至るまで、活動の参加者や支援者の声に耳を傾け、ニーズを汲み取ることで派生的に事業展開をしてきたが、それぞれの事業を横展開することで新たな事業が生まれている。例えば、従来は訪問学習のみで行っていた不登校支援活動に、国内キャンプやマレーシアワークキャンプなどを取り入れている。活動を相互に組み合わせることによって、子どもたちの学校外活動の受け皿が増え、それぞれの子どもの状態に合わせた場を提供することが可能になっている。

さらに、参加者である子どもとブレインヒューマニティーとの橋渡しの役割を、大学生が担っていることが活動の質を高めることにつながっている。子どもと年齢が近い大学生が真に求められていると感じ、とったことを基に、新たな活動を考えるため、自由な発想で多様なプログラムを生み出すことができる。

### 大学生の力を社会に還元

様々な事業を行っているが、共通することは、大学生の持つ力を日々の活動を通じて社会に還元していることにある。今では他府県から視察が来るまでになり、一つの社会的モデルとして成長できたことは、大きな成果だと言える。

運営においても、学生主体とするために、必要以上に職員が関わらないことを基本としている。永続的に組織を運営していくため、属人的な業務運営を避け、細かなことまでもマニュアル化・ルール化して、安定したサービスを誰でも同じように提供できるように工夫している。一例として、職員・ボランティアの業務の手引き書として、これまでのノウハウを蓄積したマニュアル集「六法全書」（A5版165ページ）を備え、事あるごとに参照するようにしている。



ノウハウが詰まったマニュアル「六法全書」

## 4 今後の展望

### 限られた子どもからすべての子どもへ

ブレインヒューマニティーが提供する活動を必要としているものの、今まで関わりを持つことができていない子どもたちに積極的にアプローチする必要性を感じている。同団体のミッションとして「子どもたちに対し、それぞれが多様な価値に触れ、選択肢を広げる機会を提供する」ことを掲げているが、まだ限られた子どもたちにしかサービスを提供できていないのが現状である。



ヒアリングに應對いただいた  
北村事務局長

経済的に余裕がないためにキャンプなどのイベントに参加できない子どもや、障がいがあるために通常のプログラムへの参加が困難な子どもも参加できるようにするにはどうすればよいかを考え、より多くの子どもたちに成長の機会を提供していきたい。

### 非日常から日常への展開

現在実施しているキャンプや日帰りプログラムなどは、日常生活では感じることのできない価値に触れ、選択肢を広げていくという「非日常」を提供する事業である。今後は、子どもたちが「非日常」で経験したことが日常にどう活かされるのかという点にもアプローチし、子どもたちの成長を日常を含めて多面的にサポートし寄り添える事業を展開していきたい。

（ヒアリング対応者：事務局長 北村頼生氏）





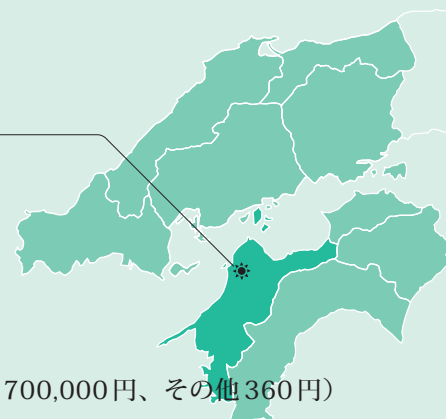
特定非営利活動法人

# えひめ子どもチャレンジ支援機構

不足・不便・不自由を乗り越え、たくましい子どもに！

所在地…〒791-1136 愛媛県松山市上野町甲650番地 愛媛県生涯学習センター内  
TEL…080-1995-6001 FAX…089-960-1900  
URL…<http://island.geocities.jp/kodomochallenge/>  
E-Mail…kouma@d6.dion.ne.jp

愛媛県松山市



1

## 団体の概要

代表者名…村上伸二  
設立年月…2006年10月 認証日…2006年10月12日  
有給スタッフ数…常勤/0名、非常勤/0名  
事業規模(09年度決算収入)…4,303,910円  
(内訳:事業収入3,567,550円、会費36,000円、補助金700,000円、その他360円)

### 活動の 目的・趣旨

青少年が主体的に企画・実施するチャレンジ活動を支援する事業を行いながら、青少年の職業観や勤労観の育成、健全な食生活に向けての意識・態度形成、さらには対人関係能力の向上やボランティア活動の推進を図り、公益に寄与することを目的とする。

### 団体の設立経緯

地域教育を専門とする大学教授の退官記念講演会を通じ集まった仲間が、せっかくなので地域教育に関わる活動を始めようと思い集まったことがきっかけである。子どもたちが大人のひいたレールの上を走るのではなく、自らが道をつくり出せるようになることを願って結成した。

### 主な活動内容

- ① みんなのチャレンジ・みんなでチャレンジ  
子どもたちがチームをつくり、自分たちで何がしたいかを考え実践するプログラム
- ② 御五神島・無人島体験事業  
宇和海に浮かぶ無人島を舞台に約10日間の無人島キャンプを実施
- ③ 地域教育実践交流集会  
地域教育の実践者が一堂に会し、様々なテーマで話し合う合宿型交流会の開催
- ④ ヤングボランティアセンター活動サポート  
愛媛県が設置した高校生ボランティアセンターの事業実施サポート

## 2 主な教育関連事業の紹介

### 事業名称 みんなのチャレンジ・みんなでチャレンジ

みんなのチャレンジ・みんなでチャレンジ事業は、3つの「ショック」(食・職・触)をキーワードとして、県内の子どもたちが自分たちで「やりたいこと」を企画・運営する長期間の体験型プログラムである。まったくのゼロから子どもたちがプログラムの内容を考えることが、他の体験型プログラムと大きく異なるポイントである。

### 子ども主体のプログラムづくり

この事業は、愛媛県内の松山市および八幡浜市の2カ所で実施されている。それぞれ20～30名程度の子どもたちが集まり、1グループ5名程度でチームをつくっている。特徴として、中学校、高等学校、大学という3つの年齢層をミックスさせ、あえて異年齢によるチーム編成を行っている点が挙げられる。なお、八幡浜市には大学が存在しないことから、小学校高学年を募集対象に含めている。



何をしたいのかワークショップで決定する

多くの体験型プログラムでは、あらかじめ何をするかを大人たちが決めていることが多いが、この事業ではそもそも何をしたいのか、何を得たいのかを子どもたち自身が考え、企画するところから始まる。それにより子どもたちが「自分が本当にしたいことは何か、自分のやりたいことを実現するにはどうすればいいのか」ということを自覚し、自立した子どもたちを育てるためのきっかけになっている。

大人たちは子どもたちの出した企画をサポートする役目を負う。移動手段の確保や現地サポーターの調達、保険の加入等、子どもたちだけでは達成が困難な点を支援する。

事業は全部で3つの段階に分かれ、早ければ4カ月程度、概ね半年程度の期間をかけて実施する。最初の段階はチーム編成と企画立案であり、1泊2日をかけて行う。その後、中間報告と実施を行う段階があり、最終段階でまとめと報告のために1泊2日の合宿を行う。

### 徹底的に、本物を追う

子どもたちの発想は自由奔放で、大人たちがあっと唸ることを考えることも多い。例えば「本格的なお月見をしたい」と考えたチームでは、団子を盛る皿をつくるために砥部(とべ)焼の窯元を訪ねて皿を焼き、月を見ながら歌を詠むのに必要な短冊をつくるため、四国中央市の紙すきを学びに現地まで飛んでいる。さらには、より美しい月を見るために、町中ではなく高原をお月見のための会場にした。

また他のチームは、手づくりチーズをつくるという目標を掲げ、機械で搾乳をする牧場が多い中、手搾りで搾乳ができる牧場を自分たちで見つけだし、遠路はるばる広島県まで出向いている。

このような試みにも大人たちは熱心に付き合うことになる。本物を知ることによって子どもたちの感性を養うことと、3つの「ショック」を体験することで生きる力を養うためである。



県外に遠征しての搾乳体験

## 事業名称 御五神島・無人島体験事業

宇和海に浮かぶ無人島の御五神島（おいつかみじま）を舞台に、9泊10日のサバイバル・キャンプを実施している。もともとは愛媛県の事業であったが、担当課等と連携し実行委員会を組織することで、様々な主体が協働して実施している。

### 不自由な中に自由を見出す

この事業は、子どもたちの自然体験の不足からくる自信の喪失、人間関係の希薄化、積極性の欠如、忍耐力の低下などを、キャンプを通して補い、あえて子どもたちを無人島という非日常の世界に置くことで様々な気付きと成長を促すことを目的としている。

参加者の募集は、県生涯学習課を通して、県内すべての小中学校に案内が行われている。1回あたりの開催で、概ね40名程度を募集している。一般にはこうした事業では集客に苦戦するところが多いが、この事業に関しては毎回定員以上の応募があり、2009年開催時には募集の5倍以上の倍率という「狭き門」になった。

参加者はまず、国立大洲青少年交流の家に集合し、1泊2日でチームをつくりガイダンスを受ける。その後、船で舞台となる御五神島へ渡る。キャンプ地は無人島であり、参加者はすべて自分たちがやらなければ、寝るところも食べるものもないという状況下に置かれる。

そのため、上陸後はすぐに安全に寝ることのできる場づくりから行わなければならない。風呂もなく、トイレは地面に穴を掘っただけの簡易のものである。都市部での生活に慣れていた子どもたちにとって、この状況はとても刺激的であり、無人島でのキャンプは想像していた以上に大変で苦しいものであることを知る。

もちろん、苦しいだけが目的のキャンプではない。島の探検やシュノーケリング、自給自足をするために貝や魚を採取するなどの体験も実施するが、その狙いは「不足・不便・不自由」な暮らしを体験する中で、便利さとお仕着せのレールから子どもたちが脱出することにある。

また、サバイバル生活では自然と子どもたちの間に連帯感が生まれ、互いに助け合う中で、心から「ありがとう」といえる瞬間が数多く生まれるという。そうした濃密な体験をすることで、子どもたちにも変化が生じ始めるのである。

### アイスクリームよりマッチ3本

キャンプ中、大人たちがイベントを開催し、優秀なチームには景品が与えられる。景品には、アイスクリームやお菓子などにまじって、「マッチ3本」がある。普段の暮らしであればマッチなど景品にはならないが、キャンプ開始後数日経って行ったイベントの際には、一番人気の景品になったという。

子どもたちはわずか数日でサバイバルの感覚を身につけ、自分たちにとって本当に必要なものが何かに気付く力を発揮したのである。そして、このような経験をして、子どもたちからは「また行きたい!」「今までで一番つらかったけど、楽しかった!」という感想が寄せられている。リピート希望率や、兄や姉が参加したから、という理由できょうだいが次の会に参加することも多い。そのため、この事業は他のキャンプイベントに比べて、高い人気を誇っている。



7日目になると子どもたちも自然に帰る

## 3 事業の成果と課題

### 地域教育の担い手が育つ

主となる2つの事業を通じて得られる成果として、子どもたちの人間力の向上が挙げられる。初日にはお母さんのスカートのすそを握っていた子どもが、日を追うごとに自信をつけ、積極的に他の子どもたちと関わり、そして自立心をつけた、という例もある。

事業を実施する中で、地域教育に関わる人たちの輪も広がっている。子どもたちと接する中で教育することの必要性を感じた人々が、それぞれの分野において地域教育の担い手として成長し、すでに活動している地域教育実践者が新しいネットワークをつくることにも成功している。

### 資金源と人材確保のための工夫

NPOの多くが抱えている資金調達については現時点でも課題ではあるが、他の団体には見られないシステムとして「後援会」を設けている。キャンプなどの事業に参加した子どもの保護者やかつての参加者などを組織し、次の開催のための寄付金をいただくことで、安定した資金源づくりに取り組んでいる。

他の課題としては、中心となるメンバーが高齢化しており、若い世代にどのように引き継いでいくか、という点が挙げられている。これについても、交流集会などを通じて人材を確保していくように図っている。

## 4 今後の展望

### 高校生がまちづくりに参加する機会づくり

ヤングボランティアセンターの運営サポートの一環で、高校生による公園の整備を通じたまちづくりと、公民館で高校生が子どもと合宿をする機会づくりを進める事業を展開している。公園整備事業は現在、1地区で実施している。落書きを消して絵を描く、連絡板を設置するなどして住民が集いやすい雰囲気をつくることで、治安の向上にも一役買っている。

合宿もすでに何件か実施しており、各地の公民館では反響がよく、独自に実施する公民館も出てきている。これを各地で行うことで、子どもたちがどんどんまちづくりに参加できる機会をつくっていききたい。

### 地域教育実践交流集会の発展

地域教育を実践する人材は重要であり、この活動がますます盛んになることで、点と点で活動してきた実践者が線でつながり、面となっていくようなものにしたいと考えている。この動きがそれぞれの地域で活かされることで、地域教育の振興を図れるよう、交流集会にもっと参加者が集まるよう努力したい。

（ヒアリング応対者：理事長 村上伸二氏、副理事長 宇都宮正男氏、事務局長 仙波英徳氏）



NPOにとって、「人のつながり」が最大の資源であるといえる。えひめ子どもチャレンジ支援機構では、後援会を設置して寄付金獲得の財源基盤として協力を仰いだり、地域教育実践交流集会を通じて新しいネットワークを形成したりすることで、多くの人を直接・間接両面から巻き込むことに成功している。このような人的資源を確保するためのシステムを団体運営の中に積極的に組み込むことで、事業を動かすための原動力をつくり上げることも、今後のNPOには必要なのではないだろうか。



特定非営利活動法人

## 岩手子ども環境研究所

所在地…〒028-5403 岩手県岩手郡葛巻町江刈42地割17番地

TEL…0195-66-0646 FAX…0195-66-0646

URL…http://www5d.biglobe.ne.jp/~morikaze/ E-Mail…morikaze0@gmail.com

代表者名…吉成信夫

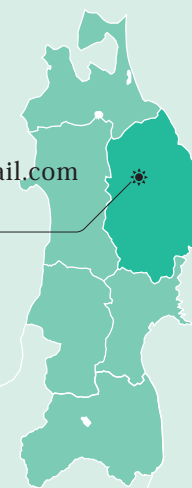
設立年月…2001年1月、認証年月…2007年1月

有給スタッフ数…常勤4名、非常勤0名

事業規模(09年度決算収入)…15,116,482円

(内訳：会費収入448,400円、事業収入3,522,420円、補助金収入9,731,727円、その他1,413,935円)

岩手県岩手郡葛巻町



## 活動の目的・趣旨

時代を担う子どもたちの「未来へ生きる力」を育むために、都会を含めた新たな人々と地域のおとな、そして子どもたちがともに、積極的に関わることのできる仕組みの創造が求められていると考え、かつて地域の結節点であった廃校跡「森と風のがっこう」を新たな広場として位置づけ、「もったいない・ありがたい・おかげさま」を活動理念に掲げ、〈自然エネルギーと地域資源の再利用〉、〈子どもの居場所づくり〉、〈アートと身体〉をテーマに、子どもやおとなが元気を取り戻すための新たなアイデアに満ちた地域モデルづくりを様々なかたちで実践提唱していくことを目的とする。

## 活動の紹介

## ● 廃校を再利用したエコスクール「森と風のがっこう」

「森と風のがっこう」では、子どももおとなも体験を通して楽しみながら学ぶことができる場として、様々な講座やイベントを企画開催している。

太陽光・風力・水力等の自然エネルギー、農、食、身体、ものづくりなど、環境に配慮した暮らし方を軸にした学びと遊びの体験を提供している。日帰りから宿泊型の長期まで、多様なプログラムを実施している。

## ● 子どもの居場所づくり「子どもオープンデー」

葛巻町の小学生を対象に、「森と風のがっこう」を舞台に毎月1回開催。

がっこう裏にある森や川の中で遊んだり、土がまの中で薪を燃やしてピザを焼いたり、子ども達が自然や自然エネルギーを、遊びを通じて楽しみながら実感できる環境教育の場となっている。葛巻町教育委員会との共催事業。

● 地域の暮らしや自然、文化を学ぶスタディツアーの開催(通年)や、地元のシニア世代の方々とともに地元の食材を見直す食の寺子屋等、岩手県北の地域と自然、伝統を学ぶ講座やイベントを開催している。

## 🌊 ここに注目

廃校の利用や自然エネルギーの利用、地域の食や文化など、環境、教育、地域活性化を融合した活動で、メディア等にも多く取り上げられている。葛巻町や教育委員会との協働を行っているほか、製紙会社と協働でESD(持続可能な開発のための教育)の実習地としての森づくりにも取り組む。



特定非営利活動法人

## NATURAS (ナチュラス)

所在地…〒041-0806 北海道函館市美原2-9-20

TEL…0138-22-0990 FAX…0138-22-0990

URL…http://naturas.okoshi-yasu.net/ E-Mail…t-akaisi@ms3.ncv.ne.jp

代表者名…赤石哲明

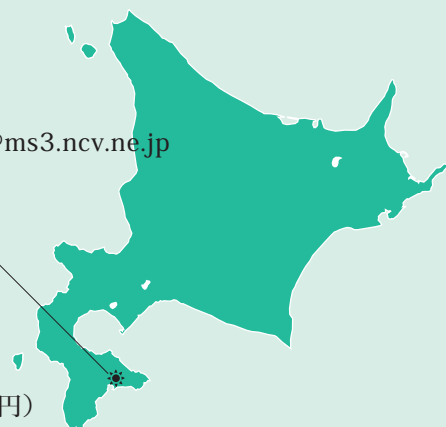
設立年月…2002年4月 認証年月…2006年4月

有給スタッフ数…常勤7名、非常勤0名

事業規模(09年度決算収入)…10,823,642円

(内訳：会費142,500円、事業収入4,656,680円、寄付金2,500円、助成金5,717,130円、その他304,832円)

北海道函館市



## 活動の目的・趣旨

子どもとその保護者ならびに大人に対して、自然体験型環境教育(学習活動、生活体験活動、創作活動、スポーツ活動、感受体験活動、野外体験活動など)や社会適応教育(自立促進活動、職業体験活動、奉仕活動、交流活動など)等の実践、運営、企画に関する事業を行い、異なった年齢の仲間が共に活動することで互いを認め合う教育活動を通して地域社会教育に寄与することを目的とする。

## 活動の紹介

## ● 子ども向け体験学習教室

子どもたちのあそび場・学び場としての様々な体験教室を運営。

食育、調理体験、アウトドア活動を組み合わせた製菓・料理教室、クラフトなどの工作教室、キャンドル作りなどの芸術体験教室や、季節に応じた自然探検やキャンプなどを行う自然体験教室などを開催している。

## ● 環境教育

2008年には北海道道南地域の小中学生を対象に、「トゲウオがどうして少なくなったか」をテーマに、北斗市久根別川や七飯町小沼、大沼などでトゲウオを探索・観察し水質環境についての学習を行うことで体験的に環境を学ぶ機会を提供した(JT助成)。

2011年には夢&環境支援基金、北海道地域活動振興協会の助成で、サケを通して自然の仕組みや環境を学ぶ体験学習プログラム「サケの秘密探検隊生まれたての命をみたい?」を実施。

## ● 講師派遣

エコクラフトやアウトドア指導などの講師派遣、個人のグループから幼稚園、保育園、学校など様々な団体に体験学習プログラムを提供している。

## 🌊 ここに注目

食育、自然・芸術体験教室や環境教育活動など、地域の自然を生かした幅広い活動を展開している。助成金の利用で地域全体で環境教育を実施したほか、市主催事業などへも講師派遣を多数行っている。



特定非営利活動法人

## あきた海辺の自然学校

所在地…〒010-1424 秋田県秋田市御野場 6-5-6

TEL…018-839-4343 FAX…018-829-2716

URL…http://www.asahi-net.or.jp/~DQ6S-UCY/

E-Mail…a\_umibe@yahoo.co.jp

代表者名…打矢繁美

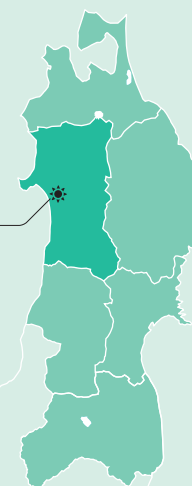
設立年月…2003年7月 認証年月…2004年8月

有給スタッフ数…常勤0名、非常勤0名

事業規模(09年度決算収入)…2,649,260円

(内訳:会費39,000円、事業収入1,710,260円、寄付金収入900,000円)

秋田県秋田市



## 活動の目的・趣旨

より多くの人に水辺（海から川そして源流）でのより安全な自然体験活動を提供するための事業や直接水中環境を体験できる長所を生かした環境保全活動や環境教育、救急法および救助法の普及啓蒙に関する事業を行うことによって社会に貢献することを目的とする。

## 活動の紹介

## ● 水辺の自然体験活動教室の実施

水中環境を生かした環境保全活動や環境教育、自然体験活動を行っている。

ダイビング教室、幼少児を対象とした自然体験教室「森と海辺のようちえん」、スノーケリングやシーカヤック教室、水面での自然観察教室、キャンプなどを行っている。

地元にとどまらず、石垣島などへのエコダイブツアーも開催している。

## ● 環境教育、情報発信活動

冬のそり遊びやかまくら作り、春の里山活動など、海辺以外に活動範囲を広げた催しも実施している。

救急法及び救助法の普及啓発活動や講習会、「親子海遊び安全講座」などを行っている。

また、日本エコツーリズムセンターの秋田事務所としても活動を行っている。

映像表現による活動も行っており、「環境映像祭」では環境保護を訴える映画の上映などを行い、県内各地でドキュメンタリー映画の上映会も開催している。

## 🌟 ここに注目

地域の自然を生かした環境教育活動を行っている。他団体のイベントへの参加も積極的に行っている。



特定非営利活動法人

## せんだい杜の子ども劇場

所在地…〒981-3117 宮城県仙台市泉区泉中央 4-17-1

TEL…022-375-3548 FAX…022-773-3538

URL…http://www.hi-ho.ne.jp/terra/ E-Mail…morinokodomo@s8.dion.ne.jp

代表者名…齋藤純子

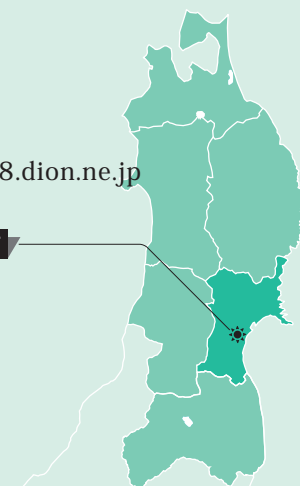
設立年月…2002年7月 認証年月…2006年4月

有給スタッフ数…常勤11名、非常勤7名

事業規模(09年度決算収入)…26,716,005円

(内訳:会費1,333,400円、補助・助成金1,181,826円、事業収入23,557,763円、寄付その他643,016円)

宮城県仙台市



## 活動の目的・趣旨

文化活動や芸術の振興、体験活動などの社会参画の機会の促進及び子育て支援に関する事業を行い、文化環境づくりを通して子どもの豊かな成長に寄与することを目的とする。

## 活動の紹介

生の舞台鑑賞（舞台劇・人形劇・音楽・芸能等）と、体験活動（子ども主体のキャンプ・ワークショップ・遊びの会等）、および子育て支援を柱に、様々な企画を組み活動している。

## ● 親子で楽しむ「体験活動」

「科学ショー」や「そば打ち体験」などの体験活動を企画・実施。子どもによる人形劇サークルも活動している。

## ● 親子対象「杜の子どものおはなしサロン」

絵本の読み聞かせ、わらべうた、手遊び、紙芝居、ママたちのおしゃべりサロンなどを開催。

## ● 児童館の運営

仙台市の指定管理制度を受けて、新田児童館と榴岡児童館の運営を行っている。

## ● 子育て応援電話「ママパライン仙台」

子育ての悩みや不安な気持ちを聴く電話を開設。電話を聴くボランティアの人材養成講座も企画・運営。

## ● イベントの実施

「子育て応援フェスティバル」「ファミリー和太鼓合宿」などのイベントを実施している。

## 🌟 ここに注目

指定管理者として児童館の運営に携わりながら、児童館と地域保護者を結ぶネットワークを構築して活動。学校や社会教育施設（市民センター等）とも連携しながら、子どもたちに様々な自然体験、社会体験や、子育て中の親の交流プログラムを提供。2007年度「みやぎ社会貢献大賞」を受賞。





特定非営利活動法人

にいざと

## 新里昆虫研究会

所在地…〒376-0134 群馬県桐生市新里町関550-1 すぎの子幼稚園内  
 TEL…0277-74-6656 FAX…0277-74-6656  
 URL…http://www.npo-nic.com/ E-Mail…info@npo-nic.com

代表者名…小池文司  
 設立年月…1999年11月 認証年月…2003年8月  
 有給スタッフ数…常勤0名、非常勤0名  
 事業規模(09年度決算収入)…9,217,570円  
 (内訳:事業収入7,560,000円、補助金1,480,750円、  
 会費176,000円、その他820円)

群馬県桐生市



## 活動の目的・趣旨

自然と人間の共生を基本理念とし、昆虫の調査研究を通じ、地球システムの解読と持続可能な文明社会のあり方を探求し、かけがえのない地球・郷土を愛する心を培うことを目的にする。

## 活動の紹介

## ● 昆虫・自然体験学習の推進

県立ぐんま昆虫の森に協力し、子どもたちに里山生活の体験させる「民家のくらし昔あそび」講座を継続的に実施。

民話を聞く会、太鼓の体験、田植え、ジャム作りなどを行っている。

県立ぐんま昆虫の森における施設の維持管理やイベント等への支援・協力を通じ、地域の活性化と里地里山の自然環境保全、まちづくりの推進を図っている。

自然体験のフィールド「昆虫王国新里自然体験村」を運営、様々な季節のイベント、昆虫観察会、子ども向けキャンプ、昆虫フェスティバル、研修旅行、稲作体験などを行っている。

その他、県土づくりプラットフォーム構築事業として設置されたビオトープを管理運営をしている。

## ● 昆虫の調査・研究活動

環境省や日本自然保護協会などと協力して地域のホタルや蝶などの調査、研究を継続的にやっている。

## 🌟 ここに注目

県立ぐんま昆虫の森との密接な連携がある。里山保存活動、自然体験教育にも積極的に取り組んでいる。県の花王みんなの森づくり活動、セブンイ-レブンみどりの基金などの助成を受けている。

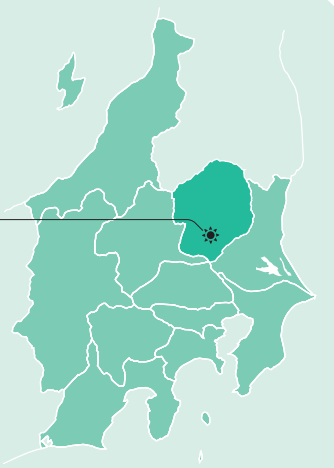


特定非営利活動法人

## 自然と人間の森おおひら

所在地…〒329-4405 栃木県栃木市大平町西山田857  
 TEL…0282-45-1677 FAX…0282-45-1688  
 URL…http://www6.ocn.ne.jp/~npooohira/  
 E-Mail…npo-ohira-no-mori@royal.ocn.ne.jp  
 代表者名…山口市作  
 設立年月…2000年7月 認証年月…2000年11月  
 有給スタッフ数…常勤5名、非常勤2名  
 事業規模(09年度決算収入)…1,619,236円  
 (内訳:会費収入200,000円、寄付金130,000円、  
 事業収入790,000円、その他499,236円)

栃木県栃木市



## 活動の目的・趣旨

子ども達の森林環境教育や市民の自然体験に関する事業及び都市と農山村の交流促進に関する事業を行い、広く社会貢献に寄与する事を目的とする。

## 活動の紹介

## ● 自然体験教室の実施

大平山南斜面の自然を生かした敷地の中で、小中学生を対象に、しいたけ栽培、昆虫飼育、竹材を利用した各種体験、竹炭製造などの自然体験事業を実施している。

農作業・収穫体験や郷土料理体験、季節の野菜をテーマにした食育なども行っている。

ボランティアスタッフによる里山の森林保全活動や 近隣小・中学生の体験学習としての森林保全として伐採・枝打ち・薪割り体験なども行っている。

近隣の小学校の総合学習の時間の指導も行っている。また、体験コースには県内外からも小中学生を受け入れている。

## ● イベント等の開催

自然の中での音楽会などのイベントを開催。

## ● 歴史民俗資料館・郷土資料館の運営

栃木市から大平町歴史民俗資料館・郷土資料館の指定管理者を受託し、運営をしている。

カイクの観察会、民話講座などのイベントを随時開催している。

## 🌟 ここに注目

自然体験教室を中心に、子どもたちに様々な体験の場を提供している。自然・環境教育だけでなく、歴史・民俗など、地域の資源を生かし、地域とのつながりの深い活動を展開している。

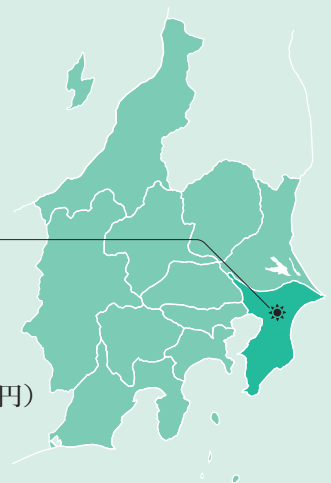


特定非営利活動法人

## NPO佐倉こどもステーション

所在地…〒285-0864 千葉県佐倉市稲荷台 1-10-9  
 TEL…043-487-1655 FAX…043-487-1663  
 URL…http://www.catv296.ne.jp/~sks/ E-Mail…sks@catv296.ne.jp

代表者名…本木綾子  
 設立年月…1984年10月 認証年月…2001年11月  
 有給スタッフ数…常勤1名、非常勤2名  
 事業規模(09年度決算収入)…8,559,385円  
 (内訳：会費4,649,986円、参加費2,553,382円、その他1,356,017円)



## 活動の目的・趣旨

佐倉市内とその近郊の子どもに対して、子どもの権利条約をもとに自主的・創造的・文化的な体験活動を行い、社会の中で主体的に生きる人になるための機会や環境づくりに寄与することを目的とする。

## 活動の紹介

「佐倉おやこ劇場」から、2001年に「NPO佐倉こどもステーション」に改称。

「観る」「表現する」「遊ぶ」ことを通して、親も子も一緒に育っていくという考えを軸に活動を展開。子ども自身の自発的な意志による子どもの社会参加の機会づくり事業や、乳幼児の子育て支援事業、子どもと文化に関する調査・情報収集・発信事業、子どもと文化に関する学習・研修事業、行政、他文化団体、他NPOとのネットワーク事業等を行っている。

## ●子どもの自主的な遊び体験・芸術体験・自然体験・社会体験事業

生の舞台を観て、心のなかから感動する体験をする舞台鑑賞や、子ども達の豊かな表現力を育てるミュージカルづくり、「そーらん」「表現発表会」などの活動を実施している。

子ども達が自ら企画、運営していく機会として、小学生では「こどもまつり」、中高生では「子どもキャンプ」を行っている。

社会体験としては、保育ボランティア講座を行い、乳幼児とそのお母さん達と子ども達が触れ合い、子ども達の社会参画の機会を作り出している。

## 🌟 ここに注目

親子で参加できる様々なイベントや学習会を通して、人と人がつながりあうきっかけづくりをしている。0才～18才までの活動を中心に、大人も含め異年齢の交流を大切にするとともに、文化活動を通して地域の人のつながりの輪を広げ、温かなまちづくりを目指している。



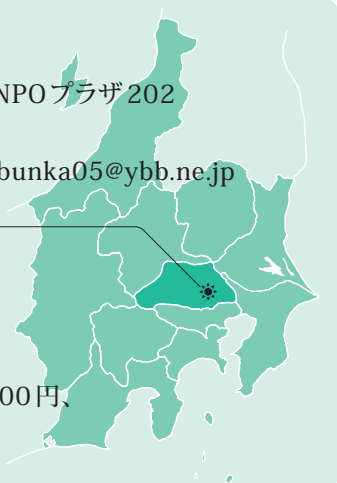
特定非営利活動法人

## 子ども文化ステーション

所在地…〒331-0823 埼玉県さいたま市北区日進町 3-757-2 さいたま北NPOプラザ202  
 TEL…048-653-0407 FAX…048-653-0407  
 URL…http://www.npo.lsnet.ne.jp/kodomobunka/ E-Mail…kodomobunka05@ybb.ne.jp

代表者名…武藤定明／三島由香  
 設立年月…2004年6月 認証年月…2005年10月  
 有給スタッフ数…常勤2名、非常勤5名  
 事業規模(09年度決算収入)…31,818,882円  
 (内訳：事業収入29,171,623円、寄付金1,379,369円、会費1,241,000円、その他26,890円)

埼玉県さいたま市



## 活動の目的・趣旨

子どもたちの多様な文化活動を推進することにより、次世代につながる先駆的な子育て・子育ての地域環境づくりと、子どもが豊かに育つ日本社会づくりに寄与することを目的とする。

## 活動の紹介

## ●子育て支援に関する事業 さいたま市「子育て支援センターさいたま北」の運営

同施設は市の委託を受けて運営している。子育てひろば、身体測定、誕生日会、コンサート、編んでるシアター、シアタースタート、ブックスタート、育児相談などを実施。また、親子たいそうclub、託児付きパソコン教室、子育て支援フェスなど様々な講座やイベントを企画、実施している。

## ●子どもの異文化交流に関する事業

同団体と友好関係にあり、日本文化教育を取り入れ幼保一貫教育をすすめる、中国内蒙古自治区にある「思徳幼稚園」と日本の子どもが、お互いに訪問をしあう交流、子ども植林などの活動を行っている。

## ●子どもの芸術文化に関する事業

子どもの創造性と豊かな心を育てるために、優れた芸術文化体験（鑑賞・参加型ワークショップ）の企画を実施し、子どもNPOや保育園・幼稚園・学校等に紹介している。生まれてはじめての舞台との出会い「シアタースタート（商標登録）」を子育て支援の施策として企画開発し、実施している。

## ●子どもの体験・社会参画に関する事業

子どもの模擬まちづくり「子どもがつくるまち“ミニさいたま”」、子ども体験フェスタin代々木公園、親子フリーマーケット、高齢者とのふれあい交流、森林整備体験などを企画、実施している。

## 🌟 ここに注目

「子ども」「文化」をキーワードに、多様な教育・体験事業を、NPO、行政、企業との協働も広げながら、企画・実施している。区、市、県、(独)福祉医療機構、(独)国立青少年教育振興機構、(財)子ども未来財団、(社)国土緑化推進機構など多くの団体の委託・助成事業の実績がある。





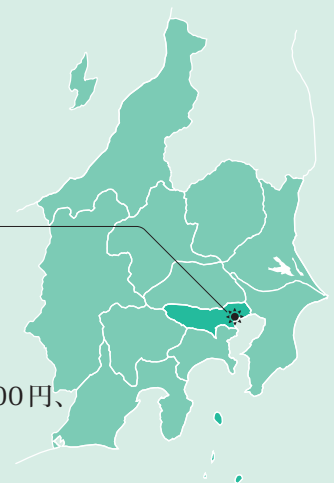
特定非営利活動法人

## 子ども未来研究所

所在地…〒141-0021 東京都品川区上大崎4-5-37 山京目黒ビル5F  
 TEL…03-3779-1236 FAX…03-3779-2589  
 URL…http://www.cof.or.jp/ E-Mail…kodomomirai@cof.or.jp

代表者名…柴崎嘉寿隆  
 設立年月…1999年9月 認証年月…1999年9月  
 有給スタッフ数…常勤2名、非常勤1名  
 事業規模(09年度決算収入)…11,522,293円  
 (内訳:事業収入6,922,998円、寄付金2,305,143円、会費2,135,000円、  
 助成金159,152円)

東京都品川区



## 活動の目的・趣旨

学級崩壊、不登校、いじめ、家庭内暴力等の問題の解決に向けて、芸術療法や、体験学習を通して、子どもだけでなく、その保護者の教育と、心の健全育成を図り、豊かな人間性を育てることで、社会全体の利益に寄与することを目的とする。100年後の人間作りを考えた「心の予防教育機関」である。

## 活動の紹介

## ●アートセラピー教室の運営

全国で子ども、親、親子のためのアートセラピー教室を展開している。子どもたち(幼児から小学生)がアートワークで自分自身を表現し、自らの力で自分らしさを育み、心身の健康な成長を促すことを目指している。

## ●小中学生向け野外体験学習「グローアップセミナー」の開催

子どもの自立を目指した体験学習のための野外活動教室を開催している。大自然に育まれ、大自然に癒され、「大好きな自分」を思いっきり感じることを目的としている。

夏と冬の年2回、北海道、福島、岡山などで開催。セットアップセミナー、体験学習(4泊5日)、フォローアップセミナーの組み合わせで実施している。

## ●様々なイベントの企画・開催

毎年開催する「田んぼで泥んこ大運動会」や、夏のキャンプ、子どもたちのアートワークの作品展、講演会、映画上映会などのイベントを企画・開催している。

## 🌟ここに注目

芸術から野外活動まで、幅広い活動を子どもたちに提供している。地震災害などに被災地でアートセラピーによるボランティア活動も行っている。また、2000年の世田谷一家惨殺事件後には地域の子どもの心のケアのためフリースクールを開校し、アートセラピーを提供した。



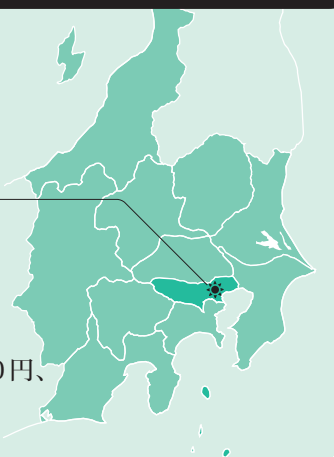
特定非営利活動法人

## ケアリングフォーザフューチャーファンデーションジャパン(CFFジャパン)

所在地…〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-45-7 ラインビル301  
 TEL…03-5960-4602 FAX…03-5960-4614  
 URL…http://www.cffjapan.org/ E-Mail…info@cffjapan.org

代表者名…安部光彦  
 設立年月…1996年11月 認証年月…2001年1月  
 有給スタッフ数…常勤3名、非常勤1名  
 事業規模(09年度決算収入)…30,173,059円  
 (内訳:事業収入24,675,826円、寄付金4,264,721円、会費745,000円、  
 助成金475,000円、その他12,512円)

東京都豊島区



## 活動の目的・趣旨

世界の子どもの健康、安全、教育の促進に寄与することを目的とし、他団体との協働を通して未来を担う青少年リーダーの育成に貢献します。

## 活動の紹介

## ●海外での子ども支援施設の運営

フィリピンとマレーシアで児童養護施設「子どもの家」を開設。その運営を行っている。

## ●海外でのスタディツアー・支援体験ツアーの実施

海外の児童養護施設の建設・運営などに向けて、ワークキャンプ、スタディツアーなどを継続的に企画・実施。日本の学生等が現地の人々と一緒に汗を流し、同時に社会や自分について共に学び、考え、さらにキャンプ終了後も主体的に次の活動をつくる。国際協力・子ども支援を通じた「気づいて築く」青年育成を目指し実践している。

## ●海外の子どもに対する援助・普及啓蒙活動

大学生などの青年ボランティアが、フィリピンの学校に行けない同世代の青年たちの奨学金を集めたり野球を通して繋がりを広げる活動、主にフィリピンやマレーシアの現地NGOなどの手作り商品の販売活動などを実施。各大学に活動の拠点をつくり、ネットワークを広げている。

## ●青少年の育成活動

主に大学生などに対し、国際協力活動、地域活動などの社会貢献活動の機会を提供。リーダーシップトレーニング講座を実施し、共通の課題、グローバルな課題解決に協働する人材の育成を目指す。

## 🌟ここに注目

海外の子どもの健全な成長と自立を支援するための活動を進めることによって、ボランティアである青少年の教育/成長にも寄与する事業を展開している。これまでに2,000人以上が参加している。



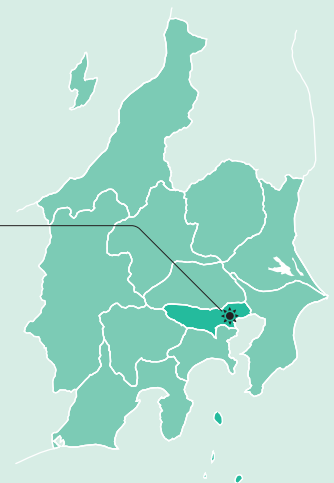
特定非営利活動法人

## 地球緑化センター

所在地…〒104-0028 東京都中央区八重洲2-7-4 清水ビル3階  
 TEL…03-3241-6450 FAX…03-3241-7629  
 URL…http://www.n-gec.org/ E-Mail…info@n-gec.org

代表者名…高橋成雄  
 設立年月…1993年2月 認証年月…1998年9月  
 有給スタッフ数…常勤9名、非常勤0名  
 事業規模(09年度決算収入)…109,244,381円  
 (内訳：会費4,641,000円、事業収入57,846,697円、  
 寄付金3,492,852円、助成金43,136,215円、その他127,617円)

東京都中央区



## 活動の目的・趣旨

緑のボランティアを育て、活動を応援する専門団体です。個人やグループをはじめ、行政、企業、学校など、さまざまな人々を対象として、緑の学習活動の推進等、多様な応援を行っています。

## 活動の紹介

地球緑化センターでは、次代を担う子ども達に、もっと緑を身近に感じて興味を持ってもらい、豊かな感性を養うため、訪問学習や出前授業（樹高測定、環境紙芝居「ガスラー」の上演など）、野外体験（森林づくり活動、クラフト体験）など、子ども達が自然と触れ合うきっかけや場を提供している。また、「森カップ・緑の文化祭」では、森をテーマとした紙芝居・歌（歌詞）の作品を募集している。クラス単位、学校単位での応募も受け付けているので、グループ学習の教材としても最適である。森の歌部門の最優秀作品には、作曲家の宮川彬良先生が作曲する。

## ● 海外

①中国内モンゴル砂漠植林ボランティア派遣 ②四川省重慶長江上流域緑化ボランティア派遣 ③河北省豊寧県砂漠植林ボランティア派遣 ④日中招聘交流事業 ⑤専門家派遣

## ● 国内

①「緑のふるさと協力隊」農山村一年間ボランティア推進事業 ②「山と緑の協力隊」週末森林ボランティア活動事業 ③「緑の学校」青少年体験活動推進事業 ④機関紙、情報紙の発行 ⑤セミナー・研究会の開催 ⑥活動に関する相談の受付、コーディネート

## 🌿 ここに注目

企業や組合の社会貢献活動、研修などのコーディネート、大学のゼミサークルなどグループ活動の支援も行っており、個人、企業、学校、行政をつなげる懸け橋として、国内外の緑化活動を進めている。



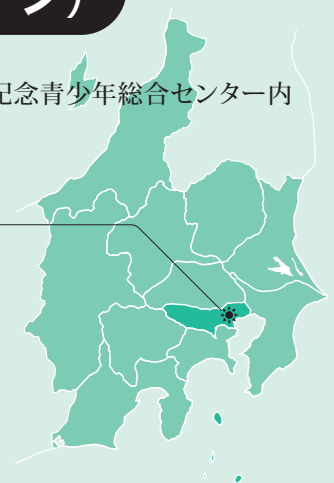
特定非営利活動法人

## 自然体験活動推進協議会(CONE/コーン)

所在地…〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター内  
 TEL…03-6407-8240 FAX…03-6407-8241  
 URL…http://www.cone.jp E-Mail…info@cone.jp

代表者名…佐藤初雄  
 設立年月…2000年5月 認証年月…2002年2月  
 有給スタッフ数…常勤5名、非常勤0名  
 事業規模(09年度決算収入)…110,919,127円  
 (内訳：会費収入6,970,000円、事業収入76,673,076円、  
 寄付金772,000円、その他26,504,051円)

東京都渋谷区



## 活動の目的・趣旨

自然体験活動憲章の精神に基づきながら、自然を舞台とした全ての自然体験活動の促進に寄与することを理念とし、分野や地域を越え、自然体験活動指導者の登録活用ならびに自然体験活動に取り組む機関、団体間の交流支援を行なうとともに、自然体験活動の調査研究や普及啓発等を行ない、もって青少年をはじめとする多くの人々の自然体験活動の推進や、あらゆる民間機関、団体と企業および政府、地方公共団体とのパートナーシップの確立を図ることを目的とする。

## 活動の紹介

## ● 自然体験活動指導者の養成・紹介

地域で、学校で、職場で、あらゆるシーンで活躍できる自然体験指導者を養成している。また、自然体験活動を広範囲にわたって指導するために、指導者の紹介も行っている。

## ● 安全な自然体験活動“事故ゼロ”をめざした普及啓発

楽しく、安全な自然体験活動を広く普及するために、全国で安全対策セミナーや組織管理者向けのリスクマネジャー養成などを行っている。

## ● 自然体験活動に関する調査研究と受託事業

指導者養成、自然体験学習、リスクマネジメント、環境教育など様々な分野で調査研究や受託事業を行っている。

## ● 企業のCSRをサポート

自然体験活動指導者の多くは地域社会において、自然体験活動を通じた青少年の健全育成、環境保全、地域づくりなどを展開しており、企業とともに社会貢献活動を展開することが可能である。

## 🌿 ここに注目

国内最大の体験活動指導者養成機関。およそ300の青少年育成団体、自然学校、野外教育団体、スポーツ振興団体、企業などが加入して、自然体験活動を普及・振興するための広範囲なネットワークを形成している組織である。





特定非営利活動法人

やま し な だ い こ

## 山科醍醐こどものひろば

所在地…〒607-8088 京都府京都市山科区竹鼻地藏寺南町2-1

TEL…075-591-0877 FAX…075-591-0877

URL…http://www.kodohiro.com/ E-Mail…kodohiro@gmail.com

代表者名…幸重忠孝

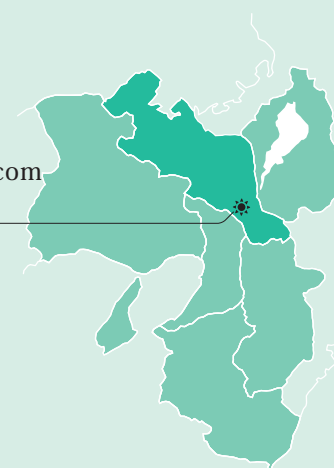
設立年月…1999年12月 認証年月…2000年3月

有給スタッフ数…常勤3名、非常勤4名

事業規模(09年度決算収入)…11,302,073円

(内訳：事業収入5,699,863円、助成金3,764,757円、  
会費940,500円、寄付金491,802円、その他405,151円)

京都府京都市

活動の  
目的・趣旨

地域に住むすべての子ども達が、心豊かに育つことを目指し、地域の社会環境・文化環境がより良くなることを目的としたNPO法人です。

子どもと大人が一体となって、ものごとに真剣に向き合うことで、“共に育ち合いたい”との願いを大切に、日々の活動をしています。

子ども同士・子どもと青年や大人・青年と大人など、あらゆる人にとって。自分らしく生きることのできる、人との交わりを大切にしています。

## 活動の紹介

## ● 子育て応援クラブ・サークルの企画・運営

未就園児から大人までを対象に、様々なクラブ・サークルを運営。遊びを取り入れた野外活動、キャンプ、地域の文化や歴史にふれる「町たんけん」、若者と子どもの創作劇、表現ワークなど様々な活動を行っている。保護者に対しては生活相談、発達相談、食育相談を実施し、手芸講座やベビーマッサージ教室、教育講座などのプログラムを行っている。

## ● 文化活動

人形劇サークルとリコーダーアンサンブルを主宰、公演活動を行い、地域の子どもたちが芸術に触れる機会をつくっている。

## ● ボランティアの養成

子育て支援ボランティア養成講座、ボランティアスタッフ講座、勉強会などを開催している。

## ● 子育て支援

京都市子育て支援活動いきいきセンター事業として0歳から3歳の親子の自由来館スペース「げんきスポット0-3」の運営や、子どもの食事や入浴、学習の生活支援を中心とした事業も行っている。

## 🌟 ここに注目

子どもから大人まで、様々な教育・育ちの場を提供している。京都市東部文化会館、山科区社会福祉協議会、京都橘大学、山科青少年活動センターと協働で「子どもの文化フォーラム」も開催し、ネットワークも広がっている。また子どもの貧困対策としての生活支援がメディアに多数掲載される。



特定非営利活動法人

## 日本冒険遊び場づくり協会

所在地…〒154-0003 東京都世田谷区野沢3-14-22 のざわテットーひろば内

TEL…03-5430-1060 FAX…03-5430-1060

URL…http://www.ipa-japan.org/asobiba/ E-Mail…asobiba@ipa-japan.org

代表者名…大村虔一

設立年月…1999年9月 認証年月…2003年8月

有給スタッフ数…常勤1名、非常勤2名

事業規模(09年度決算収入)…8,491,115円

(内訳：事業収入4,021,422円、会費3,184,000円、寄付金1,186,728円、  
その他98,965円)

東京都世田谷区

活動の  
目的・趣旨

「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーにした子どものための冒険遊び場づくりを推進すると共に、全国に展開する冒険遊び場づくりの活動の支援をし、もって、子どもたちの遊び環境の向上に寄与することを目的とする。

## 活動の紹介

## ● 遊び場づくり推進事業、プレーリーダーの育成

冒険遊び場づくりに取り組もうとする市民団体や自治体を支援し、互いの連携を促すため、活動の展開のノウハウの開発、遊び観・子ども観を世に問いかける、冒険遊び場づくりの魅力をアピールする、という3本柱で、プレーリーダーや講師の派遣、講演会・研修などの企画サポート、各種相談、資料の提供を行っている。

大正大学と連携した公開遊育プログラムの開催や、全国の自治体、教育委員会、NPO、財団などからの遊び場づくり支援受託の実績がある。また、研究・調査では経年変化をもとに、行政への提言も行っている。

## ● 冒険遊び場づくり全国研究集会の開催

冒険遊び場づくり全国研究集会を98年より3年に一度1泊2日で開催。10年度は初の「冒険遊び場全国一斉開催の日」を、参加119団体、賛同49団体を得て全国各地で開催した。

その他、全国では地域ごとの活動者の集まりによる情報交換を勧め、主体的な活動をサポートし、「冒険遊び場活動」を広く社会に知ってもらうキャンペーン、全国の活動団体の開催場所などの最新情報の把握とWEBでの公開などを行っている。

## 🌟 ここに注目

全国の子どもの遊び場づくりをつなぐ中間支援組織として、組織的体系的な活動をしている。理事は冒険遊び場づくりに関係する各部門の専門家や活動実践経験者で構成され、全国各地の冒険遊び場(プレーパーク)に関わる行政、団体と深い連携を行っている。



特定非営利活動法人

いわみ

## 岩美自然学校

所在地…〒681-0003 鳥取県岩美郡岩美町浦富 2924-3

TEL…0857-72-0507 FAX…0857-72-0507

URL…http://nposanai.com/ E-Mail…iwami@nposanai.com

代表者名…澤 健一

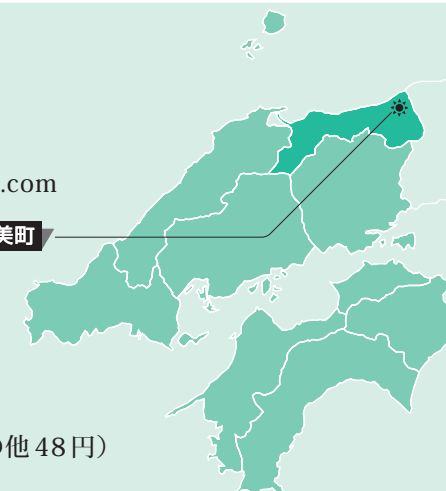
設立年月…1991年 認証年月…2001年5月

有給スタッフ数…常勤0名、非常勤0名

事業規模(09年度決算収入)…2,124,198円

(内訳：会費100,000円、営利事業収入944,150円、  
非営利事業収入1,030,000円、寄付金50,000円、その他48円)

鳥取県岩美郡岩美町

活動の  
目的・趣旨

児童・青少年及びそれに関わる個人・法人、その他の団体（以下児童・青少年等という。）  
に対して、自然体験等に関する事業を行い、児童・青少年等の健全育成に寄与すること  
を目的とする。

## 活動の紹介

## ● 学校体験指導

高校生などを対象とした体験学習。

海洋環境の保護や地域の自然環境の保全について考える機会を創っている。

## ● 総合型地域スポーツクラブ

スポーツクラブの小学生を対象に、シーカヤック体験を通して、海活動の楽しさを伝えている。

## ● 「渚交流館」の管理・運営

岩美町から「渚交流館」の指定管理を受けて管理運営を行っている。

他地域間交流として「渚のクリスマスコンサート」を行っている。

## 🌟 ここに注目

活動拠点である浦富海岸が世界ジオパークに認定されたこと  
をきっかけに、鳥取県内、関西圏だけでなく広い範囲及び  
幅広い年齢層を中心に海の自然体験活動を提供している。



特定非営利活動法人

## 生涯学習サポート兵庫

所在地…〒672-8088 兵庫県姫路市飾磨区英賀西町 2-15-2

TEL…079-230-0661 FAX…079-230-0662

URL…http://shosapo.iwish.jp/ E-Mail…shosapo@iwish.jp

代表者名…山崎清治

設立年月…2003年3月 認証年月…2003年3月

有給スタッフ数…常勤11名、非常勤4名

事業規模(09年度決算収入)…37,069,867円

(内訳：事業収入33,739,922円、補助金・助成金3,142,078円、  
その他123,367円、会費64,500円)

兵庫県姫路市

活動の  
目的・趣旨

地域で活動する団体、個人に対して、レクリエーションや野外活動などの様々な生涯学習  
につながる活動の支援事業を行い、もって広く県民の生涯学習の推進と心身の健全なる  
発達に寄与することを目的とする。

## 活動の紹介

「あそべない子どもをあそべる子どもに あそべない大人をあそべる大人に」をテーマに、様々な体験  
プログラム「あそび」を使い、地域で活動する様々な団体に手作りの「学び」を提供。

## ● 主催事業

小学校低学年を対象とする、架空のストーリーを設定したキャンプ「パイレーツアドベンチャー」、小学  
校高学年～中学生を対象とする、150kmを徒歩で縦断する「チャレンジウォーク」、夏休みに無人島1  
週間自給自足生活をする「チャレンジアイランド」など、独自の体験プログラムを主催。

また、小学校高学年～高校生でフリースクール等に通うなど不登校状態にある子どもとその支援者を対  
象とする、不登校ひきこもり支援事業「ウルトラクイズウォーク」や障がい児対象のキャンプの指導など  
も行っている。

## ● 体験プログラムの提供と各種団体行事の支援

保育園、幼稚園、小・中・高・大学、子ども会、子育てサークル、支援センター等の各種団体に、自  
然体験活動・レクリエーションゲーム・ワークショップ・身体活動・創作活動・環境教育・表現活動など様々  
な体験プログラムを、依頼者や参加者のニーズに合わせて提供している。

## 🌟 ここに注目

年間延べ520団体の生涯学習行事を支援している。  
主催事業「チャレンジアイランド2010」が2010年度トム  
ソーヤスクール企画コンテスト一般部門「優秀賞」を受賞。  
JTのNPO助成金等を受けているほか、企業や行政との協  
働実績もある。





特定非営利活動法人

## ひろしまレクリエーション協会

所在地…〒730-0042 広島県広島市中区国泰寺町1-7-24 国泰寺ビル301

TEL…082-241-1528 FAX…082-241-1528

URL…http://npohiroshimarec.or.jp/

E-Mail…office@npohiroshimarec.or.jp

代表者名…鍋島一仁

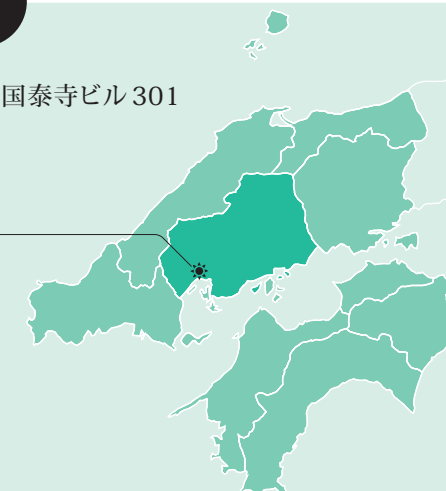
認証年月…2005年4月

有給スタッフ数…常勤0名、非常勤30名

事業規模(09年度決算収入)…5,059,715円

(内訳：事業収入3,244,030円、会費865,800円、補助金等617,390円、その他332,495円)

広島県広島市



## 活動の目的・趣旨

レクリエーション活動の普及振興により、地域住民に対し、一人ひとりの自立をベースにした生きがいづくりや健康で安らぎのある生活づくりに関する事業を行い、活気と潤いのあるまちづくりの推進を図ることを目的とする。

## 活動の紹介

## ●レクリエーションの推進

福祉レクリエーションの講習、レクリエーション・インストラクター育成講座を実施。また、レクリエーション研究大会の開催などを通して、レクリエーションを推進する活動を行っている。

## ●自然・社会活動体験プログラムの実施

小学生から高校生までを対象に、およそ1年間、自然・社会・文化など様々な活動を体験する総合的なプログラムを運営している。地域や年齢の異なるメンバーとの交流を通して、共にコミュニケーション能力や想像力、表現力を育み、自分で考え、自分から主体的に行動できるたくましい子どもの育成を目指している。

## ●「遊び」をテーマとした企画の実施等

2010年度には広島県事業「パイオニアスピリット実践事業」へ協力し、「遊び」をテーマにプレーパークを作ろう」をテーマに、社会貢献事業の企画・立案・実施をする高校生に対して指導を行った。また、広島県が実施する「食べる!遊ぶ!読む!」キャンペーンの一環として、ひろしまフードフェスティバルにおいてブースの出展を行った際には、「遊ぶ」ブースにおいておもちゃ作りなど、様々な体験の機会を子どもたちに提供した。

## 🌟ここに注目

レクリエーションの推進から発展して、「遊び」に関する各種企画、自然・社会活動など、様々な事業を展開している。



特定非営利活動法人

## 岡山市子どもセンター

所在地…〒701-0144 岡山県岡山市北区久米348 旧白石幼稚園内

TEL…086-242-1810 FAX…086-242-1830

URL…http://www.kodomo-npo.jp/ E-Mail…info@kodomo-npo.jp

代表者名…美咲美佐子

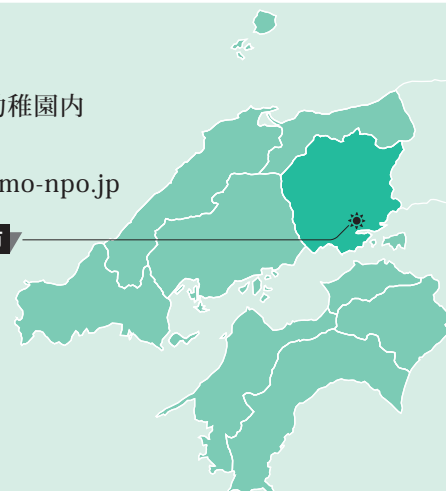
認証年月…2001年3月

有給スタッフ数…常勤5名、非常勤0名

事業規模(09年度決算収入)…27,615,418円

(内訳：会費15,236,800円、事業収入11,934,586円、助成金・寄付金324,531円、その他119,501円)

岡山県岡山市



## 活動の目的・趣旨

子どもに対して、子どもの社会参画の機会の拡充を図るとともに、子ども劇場をはじめとする子どもに関する諸団体に対して、連絡、交流、支援等の事業を行い、よって、子どもの豊かな成長に寄与することを目的とする。

## 活動の紹介

舞台芸術鑑賞を中心に、子どもの体験教育の場づくりを展開している。

## ●舞台芸術鑑賞会の主催

市内の子ども劇場（団体正会員）と連携しながら小学生向けの演劇、人形劇、コンサートなどを定例で主催。子どもたちが、気軽に継続的に舞台芸術に触れる機会を提供している。

## ●ワークショップ・講演会の開催

子どもや一般を対象に人権、子育てに関する講演会、連続教育講座、表現活動のワークショップなどを行っている。

## ●子どもの体験づくり

市内の公園にプレーパークを運営、子どもがのびのびと思いつき遊べる環境を用意し、そこで様々な遊びの企画を行っている。また、夏休みフリー塾や科学実験講座では、生活に身近な実験や調理、ものづくりの体験を通して子どもの居場所を提供している。お祭りイベントの「キッズフェスティバル」も開催。

その他各種体験活動の提供や子育て支援、ボランティア養成などを積極的に行っている。

## 🌟ここに注目

様々な年齢、立場の人たちと子どもたちが共に体験する機会を設け、子どもの社会参画を目指して活動を実施。催し物の企画では、他の市民団体や行政、企業と協働して積極的な活動を展開している。



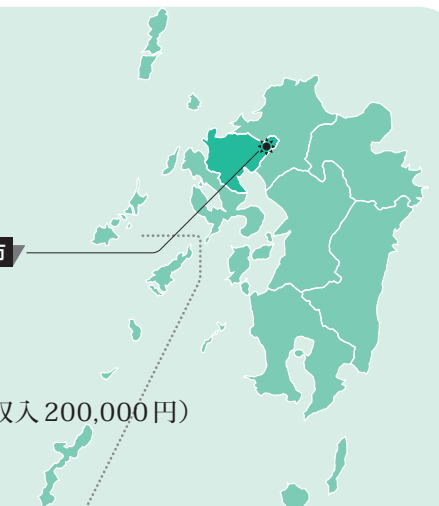
特定非営利活動法人

## 市村自然塾 九州

所在地…〒841-0087 佐賀県鳥栖市河内町字谷口2212-2  
 TEL…0942-82-5211 FAX…0942-82-5502  
 URL…http://www.szej-k.com/ E-Mail…info@szej-k.com

代表者名…末吉紀雄  
 認証年月…2002年1月  
 有給スタッフ数…常勤11名、非常勤1名  
 事業規模(09年度決算収入)…52,400,000円  
 (内訳:会費4,100,000円、寄付金収入48,100,000円、雑収入200,000円)

佐賀県鳥栖市



## 活動の目的・趣旨

小・中学生の子供たちに対して、農作を基礎に置いた自然体験活動、共同生活の場を提供し、子供たちの健全育成に寄与することを目的とする。

## 活動の紹介

コカ・コーラウエスト(株)の地域社会貢献活動の一環として運営されており、基本理念は「生きる力を大地から学ぶ」。2011年で9期を数える。

## ● 通年・定期的・共同合宿活動

参加は小学4年から中学2年までの男子30名、女子30名。3月から12月初旬の週末(2泊3日)を18回、延べ54日間、男女別に隔週開催。

子どもたちが、世話人と共に農作物の栽培から収穫までの体験や、自然塾体験活動を通して、多様な自然の生態・原理を学ぶ。加えて、住んでる地域・学校・学年が異なる集団が共同生活をおくることにより、仲間との付き合い方、譲り合い方、協力の仕方を学び、“主体性・創造性などの資質”を育む場を提供する。

## ● 運営にあたって

子どもたちの自主・自立・自律を目指し、スタッフは「指示しすぎず、命令しすぎず、教えすぎず、世話をやきすぎず」のスタンスで、子ども達自らが考え・行動するようにサポートする。

## ● 費用

無料。但し市村自然塾九州までの交通費は各自負担。

## 🌟 ここに注目

12月、延べ54日間の研修の最後を卒塾式で締めくくる。子ども達が自らの成長と仲間たちとの楽しい日々を振り返る思い出深い場となり、共同合宿活動が実を結んでいることを示している。



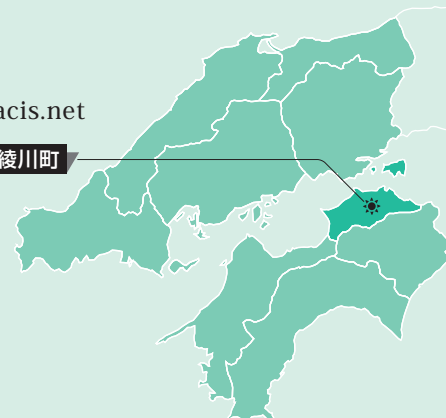
特定非営利活動法人

## 綾上子どもの里インターナショナルスクール

所在地…〒761-2206 香川県綾歌郡綾川町西分1208  
 TEL…087-870-9387 FAX…087-870-9388  
 URL…http://www.e-acis.net/top.htm E-Mail…miki@e-acis.net

代表者名…三木仁美  
 設立年月…2005年8月 認証年月…2005年8月  
 有給スタッフ数…常勤1名、非常勤0名  
 事業規模(09年度決算収入)…700,000円  
 (内訳:青少年自然体験推進事業700,000円)

香川県綾歌郡綾川町



## 活動の目的・趣旨

青少年及びそれらの子を持つ保護者に対して、地域に根ざした教育支援に関する事業を行い、将来を担う子ども達の健全育成を図り、広く社会に寄与するとともに、自然保護教育の推進と環境保全活動をもって社会貢献を推進することを目的とする。

## 活動の紹介

## ● 幼児教室の運営

子どもの成長に応じた様々な活動を通じて、遊びを大切に丁寧な教育を行っている。0歳から12歳までの子どもを対象に、全日制、週1回クラス、学童保育などのカリキュラムを用意し、体験学習を取り入れた教育を目指している。

子どもたちが実際に手を使って目で見て触れてという体験を通して、日常生活の練習(竹葉切り、せんたく、アイロンかけ、ぬいもの、動物の世話など)、感覚教育(五感を磨く)、言語教育(言葉を豊かにする)、等数教育(数量と数字の一致、連続数の理科、たし算、ひき算、かけ算、わり算)、文化教育(宇宙、地球、国旗、生命の進化、自然観察、造形美術、音楽)などを実施している。

## ● 家庭教育支援事業

親と子が共に楽しみ、仲間づくりができる「くすの木ひろば」を週1回開催。休日の子どもの居場所づくり「ホリデースクール」、小学生から中学生までを対象とした「週末学習塾合宿」も行っている。

## 🌟 ここに注目

廃校となった小学校を利用し、自然体験を取り入れた教育の場を作っている。

恵まれた自然の中で、異年齢の子どもたちが一緒に伸び伸びと遊ぶことにより、親子や家族の暖かい心が培われることを目指し、幼児・小学生向けの独自の体験学習を進めている。





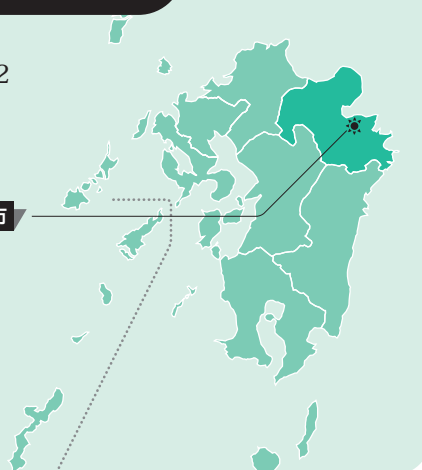
特定非営利活動法人

## ウォーターセーフティーマネジメント協会

所在地…〒870-0036 大分県大分市寿町8-11 リバーサイド寿202  
 TEL…097-599-5626 FAX…097-599-3091  
 URL…http://www.wsma.or.jp/ E-Mail…info@wsma.or.jp

代表者名…安達千恵  
 設立年月…2005年6月 認証年月…2005年5月  
 有給スタッフ数…常勤0名、非常勤0名  
 事業規模(09年度決算収入)…957,700円  
 (内訳:会費・入会金50,000円、事業収入707,700円、補助金収入200,000円)

大分県大分市



## 活動の目的・趣旨

全ての地域住民に対して、海岸をはじめ水辺での監視・救助活動と安全教育及び環境教育を行い、安全・安心な地域社会の構築を図り、広く公益に貢献する事を目的とする。

## 活動の紹介

## ● 青少年への水辺での自然学習教室

海において、「自然体験型環境学習会」を、幼稚園児や小学生を対象として、年に2回実施している。

## ● 水難事故防止に係る講習会

小中学生を対象とした「ジュニア・ライフセービング教室」や、一般を対象とした「水辺の安全管理講習会」を実施。水難事故を防止するための心構えや、いざというときの対処の方法を学ぶ。

## ● 水難事故防止及び環境保全啓発事業

ライフセービングで培った安全管理のノウハウ、水難救助の知識や技術を活かし、子どもから大人まで、年齢に合わせた水辺の教育活動を行っている。

## 🌊 ここに注目

ライフセービングで培った安全管理のノウハウ、水難救助の知識や技術を活かし、子どもから大人まで、年齢に合わせた水辺の教育活動を行っている。



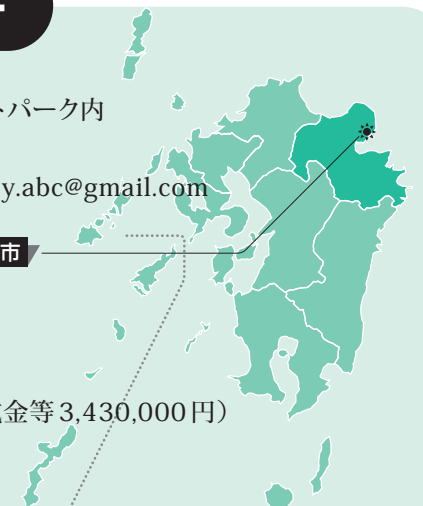
特定非営利活動法人

## エー・ビー・シー野外教育センター

所在地…〒873-0033 大分県杵築市守江1165-2 住吉浜リゾートパーク内  
 TEL…0978-64-9127 FAX…0978-64-9128  
 URL…http://www.npoabc.kuronowish.com/ E-Mail…pockey.abc@gmail.com

代表者名…藤谷将啓  
 設立年月…2001年7月 認証年月…2001年7月  
 有給スタッフ数…常勤1名、非常勤3名  
 事業規模(09年度決算収入)…9,800,000円  
 (内訳:会費0円、事業収入6,370,000円、寄付金0円、助成金等3,430,000円)

大分県杵築市



## 活動の目的・趣旨

青少年に対して野外活動をはじめ文化活動並びに国際交流に関する事業を行い、自主的な活動を促進・支援・調査することで、青少年の健全な育成に寄与することを目的とする。

## 活動の紹介

## ● 冒険教育を手法とした研修の実施

子ども、家族、一般向けに冒険教育(アウトドア・エデュケーション)をベースとした、信頼関係、コミュニケーションスキル、リーダーシップ、問題解決のスキルなどを学ぶプログラムを実施している。グループ全員が協力して与えられた課題に取り組みチャレンジしながら、挑戦と失敗の繰り返しを通して協力、思いやり、チャレンジする心などを育む、定例の「ABCプログラム体験会」のほか、様々なテーマで実施している。夏休みなどを利用した子ども向けのプログラムも実施している。

## ● 年間企画委託

学校、自治体などでの年間を通したプログラムの段階的な実施と、各地域の持つ環境や条件を織り込んだオリジナルなO.E.E.(野外環境教育プログラム)を企画。長期的な地域でのリーダー育成プランを作成している。

## ● 海外での実践プログラムの企画と実施

国内での基礎研修を終えると、ステップアップとして実際に海外での様々な野外アクティビティに参加できる。海外提携機関との交換プログラムへの参加や、海外の青少年とともに合同プログラムへの参加を実施している。

## 🌊 ここに注目

こども未来財団と共催で「おおいた野外教育・体験教育フォーラム」を県内3カ所で開催。行政(県・市町村)からの人材育成・教育・人権・子育て・環境分野での事業を受託。企業からの人材育成プログラムの受託。異業種研修の場「九州能力開発研修会」事務局。



特定非営利活動法人

## エコ・リンク・アソシエーション

所在地…〒897-0006 鹿児島県南さつま市加世田本町 53-6

TEL…0993-53-7270 FAX…0993-53-7270

URL…http://eco-link.jp/ E-Mail…desk@eco-link.jp

代表者名…下津公一郎

設立年月…2000年12月 認証年月…2001年5月

有給スタッフ数…常勤12名、非常勤0名

事業規模(09年度決算収入)…87,069,430円

(内訳：事業収入69,058,622円、その他18,010,808円)

鹿児島県南さつま市

活動の  
目的・趣旨

市民に対して、資源循環型社会の構築、自然環境の維持、保全と生態系の回復、環境問題への対策に関する事業を行い、自然との共生を図るエコロジカルな視点で、環境を軸とした世界観、価値観の創造する活動を通して、地球環境の維持、保全、生態系の回復に寄与することを目的とする。

## 活動の紹介

## ●自然体験教室「薩摩半島自然学校」の開催

南九州市森林馬事公苑を拠点に、薩摩半島全域をフィールドとした自然学校を開催している。

子どもから大人までを対象として、農林と食の体験、漁と食の体験、アウトドア体験、自然工芸体験などをテーマとした様々なプログラムを企画している。

## ●農家民泊による修学旅行受入事業

地域の農家や漁家に泊まりながら自然と歴史と人に学ぶ、民泊型教育旅行受入の事業を行っている。農家や漁家に泊まりながら、自然と歴史と人に学び、とれたての野菜や魚を味わい、家族のような交流を行い、かけがえのない思い出づくりをすることができる。主に県外から年間10,000人程度の都市部の中・高校生を受け入れ、そのコーディネートを担当している。

## ●体験活動指導者育成

薩摩半島自然学校や修学旅行受け入れ体制の強化のために、自然体験活動指導者養成研修会を実施している。

## ●木口屋集落〈地球の家〉アートプロジェクト

限界集落の課題を解決するとともに、自然景観や人材を生かしたアートミュージアムなどの開催。

## 🌟 ここに注目

多面的社会における共生・協働という目標に向かって、地域社会の課題やニーズをつかみ、環境共生型社会の実現に向けた実験的事業に取り組み、次世代の担い手を育成している。鹿児島県薩摩半島地域のグリーンツーリズム振興において中心的な役割を果たしている。



Vol ②-3



不登校、ニート・ひきこもりに対する支援